

ISSN 2186 – 3989

立山信仰を受容した信濃国の人々
—特に立山芦峯寺教蔵坊との関係において—

福江 充

People of Shinano Province who accepted Tateyama Beliefs
— Especially in relation to Tateyama Ashikuraji Kyōzōbō —

Mitsuru Fukue

北 陸 大 学 紀 要
第56号(2024年3月)抜刷

立山信仰を受容した信濃国の人々 —特に立山芦峯寺教蔵坊との関係において—

福江 充*

People of Shinano Province who accepted Tateyama Beliefs
— Especially in relation to Tateyama Ashikuraji Kyōzōbō —

Mitsuru Fukue*

Received January 8, 2024

Accepted February 1, 2024

抄録

本稿は立山信仰史研究における一課題として、信濃国での立山信仰の広まりを検討したものである。その際、特に立山山麓芦峯寺の宿坊家・教蔵坊の実態に着目している。具体的には、教蔵坊が文政8年(1825)に信濃国の人々から寄進を受けた銅造地藏菩薩半跏坐像(現、富山県小矢部市・本覚山観音寺〔真言宗〕に安置)の銘文を分析史料とし、俗名で刻まれた寄進者名とその住所をすべて整理して一覧表を作成した。そこから教蔵坊の檀那場(布教圏)を推測し、また長野県に現存する教蔵坊が発給した寄進者に対する領収証文などの古文書史料とも併せて、教蔵坊と直接的に関係を持ったことが確認できる人々を数例提示した。

一方、教蔵坊が寄進を受けた銅造地藏菩薩半跏坐像の製作にあたっては、先述の銘文から、同坊の衆徒照界と松本の絞木綿問屋の同業組合「立山講」との関係が背景にあるとみられ、さらにこの松本の立山講は、越中国の新川木綿の生産・流通状況にも深く関わっていた。こうした当時の新川木綿を取り巻く状況についても、信濃国の人々の教蔵坊への銅造地藏菩薩半跏坐像の一件と併せて、両者の関係性についても、そこに師檀関係の存在を浮き彫りにした。

キーワード：立山信仰、立山、芦峯寺、教蔵坊、衆徒、新川木綿、信濃国松本、立山講

はじめに

富山県立山山麓の芦峯寺雄山神社や富山県〔立山博物館〕では、かつて芦峯寺宿坊家を使用した檀那帳や廻檀日記帳、勸進記などを多数所蔵するが、筆者は約30年来、これらの史料を調査・整理し、芦峯寺宿坊家衆徒の廻檀配札活動や檀那場の実態について検討を試みてきた。

こうした立山信仰の伝播者側の史料である檀那帳や廻檀日記帳、勸進記などからは、衆徒が行った廻檀配札活動の内容や信仰圏である檀那場の分布・規模・檀家構成など、どちらかといえば外事的な面をある程度捉えることができたが、一方、檀那場で立山信仰を信仰対象として受容した人々の本当の意味での信仰の有様や、それらの人々が依拠した立山講の組織経緯、講活動など、内事的な面については、それらを構造的に捉えようとした場合、衆徒の布教を受けて立山信仰を受容した民衆側の史料は必要不可欠である。しかし、

*北陸大学国際コミュニケーション学部 Faculty of International Communication, Hokuriku University

これらの課題については進展が滞っており、まだまだ調査・検討の余地がある。

筆者はかつて、この一連の研究において、芦峯寺衆徒が江戸時代後期以降に信濃国で形成していた檀那場について調査・研究を行ったことがあり、その成果は2001年に当時筆者が勤務していた富山県【立山博物館】の研究紀要に論文として発表している¹。のちにその論文は、筆者が翌年に刊行した『近世立山信仰の展開—加賀藩芦峯寺衆徒の檀那場形成と配札—』にも再録している²。

その際、テーマに対する分析史料として、芦峯寺雄山神社所蔵の3冊の帳冊を用いた。1冊は芦峯寺の宿坊家・福泉坊が信濃国を布教地として用いた檀那帳（江戸時代幕末期の成立と推測される）であり、もう1冊は旧所蔵宿坊家が不明の明治15年（1882）の新潟県・長野県・群馬県・埼玉県・東京府を布教地とした檀那帳、あとの1冊が、旧所蔵宿坊家が不明の明治7年（1874）から同9年（1875）の間に成立した、長野県・熊谷県・埼玉県を布教地とした祠堂金控帳であった。

筆者はまず、これらの史料を解読したうえで檀家の氏名や住所を一覧表に整理し、次にそこから芦峯寺衆徒が信濃国で行った廻檀配札活動の内容や信仰圏である檀那場の分布・規模・檀家構成などを明らかにした。

一方これとは別に、富山県小矢部市観音町・本覚山観音寺（真言宗）の前庭に安置されている銅造地藏菩薩半跏坐像も信濃国の檀那場の分布・規模・檀家構成などを知ることができる重要な史料である。この地藏尊像は芦峯寺の宿坊・教蔵坊が、文政8年（1825）7月に信濃国の立山信仰の信者たちから寄進されたもので、その身体全体には数多くの寄進者名とその所在地が刻み込まれている。筆者はかつて、それらの銘文から寄進者の所在地と人数を調べ上げ、一覧表を作成した。しかしその際、信者の俗名・戒名などの情報については合わせて2500人を超え、あまりにも多かったので、一覧表の作成及び論文・書籍への提示を諦めた経緯がある。また、同一信者の重複記載も多数見逃してしまっていた。こうした当時の作業に対して今振り返ってみると、この時に信者名の整理・提示を行わなかったことが、信濃国の立山信仰の信者たちの実態をぼやかしてしまうことになり、後の研究を停滞させた要因になったと思われる。

そこで本稿では今後の研究への利便を考え、地藏尊像に刻み込まれた信者の俗名をすべて書き上げ、一覧表を作成して提示したい。さらに、このデータから教蔵坊の信濃国の檀那場（信仰圏）を推測し、また長野県に現存する教蔵坊が発給した寄進者に対する領収証文などの古文書史料とも併せて、教蔵坊と直接的に関係を持ったことが確認できる人々をあけておきたい。一方、教蔵坊が寄進を受けた銅造地藏菩薩半跏坐像の製作にあたっては、銘文から、同坊の衆徒照界と松本の紋木綿問屋の同業組合「立山講」との関係が背景にあると見られ、さらにこの松本の立山講は、越中国の新川木綿の生産・流通状況にも深く関わっていた。こうした当時の新川木綿を取り巻く状況についても、信濃国の人々の教蔵坊への銅造地藏菩薩半跏坐像の一件と併せて、検討していきたい。

1. 小矢部市観音寺銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文

富山県小矢部市観音町・本覚山観音寺（真言宗）の前庭に安置されている銅造地藏菩薩半跏坐像（写真1）は、江戸時代までは立山山麓芦峯寺の閻魔堂の前庭に安置されていた。同地藏尊像は芦峯寺の宿坊・教蔵坊³が、文政8年（1825）7月⁴に信濃国の立山信仰の信者たちから寄進されたものであった。なお、請負人（製作・寄進事業の代表者）は松本飯田町の薬罐屋佐原市右衛門正孝⁵で、鋳物師は信濃国上田の小嶋大治郎藤原弘孝⁶である。

さてそれは後に、明治初年（1868）の神仏分離令にもとづく廃仏毀釈の影響を受け、まず、芦峯寺から加賀国河北郡俱利伽羅村の長楽寺に移遷された。もっともその長楽寺も明治2年（1869）に明治政府の神仏分離令によって廃され、その後は手向神社となっていた。同神社に移遷されたその地藏尊像は、さらに明治5年（1872）に観音寺に移遷され、現在に至っている。

この地藏尊像が前述のとおり文政8年（1825）に芦峯寺閻魔堂の前庭に露天で安置されて以降⁷、現地では、芦峯寺一山衆徒による毎年7月16日の閻魔堂の縁日⁸や同日の大水陸会⁹などの年中行事で礼拝されていた。

ところで、この地藏尊像には、身体全体に数多くの寄進者名とその所在地が刻み込まれている。筆者はかつて、それらの銘文から寄進者の所在地と人数を調べ上げ、一覧表を作成した。しかしその際、信者の俗名・戒名などの情報については合わせて2,500人を超え、あまりにも多かったので、一覧表の作成及び論文・書籍への提示を諦めた経緯がある。だが今になって思うと、この時に信者名の整理・提示を行わなかったことが、信濃国の立山信仰の信者たちの実態をぼやかしてしまうことになり、後の研究を停滞させた要因になったと考えている。

そこで本稿では今後の研究への利便を考え、地藏尊像に刻み込まれた信者の俗名をすべて書き上げた第1表を作成した。なお、同表の作成にあたっては、立山町史編纂室編『立山請来 延命地藏銘 小矢部市観音寺境内安置』¹⁰の内容にもとづいた。



写真1：小矢部市観音寺銅造地藏菩薩半跏坐像（筆者撮影）

第1表：小矢部市観音寺安置銅造地藏菩薩半跏坐像に刻まれた銅尊の寄進者				76	16-06	木浦村	岩崎三郎兵衛	1
No.	村番号	寄進者所在地	寄進者氏名	人数	77	16-07	木浦村	かみや又右衛門
				78	16-08	木浦村	於りそ	
1	1-01	糸魚川新田町	岡沢治郎右衛門	1	79	17-01	鯨尾村	丸山善右衛門
2	1-02	糸魚川新田町	青木弥兵衛	1	80	17-02	鯨尾村	丸山治郎兵衛
3	1-03	糸魚川新田町	野本徳左衛門	1	81	17-03	鯨尾村	丸山おやス
4	2-01	横道村	樋田佐平	1	82	18-01	柱道村	利根川与惣右衛門●
5	3-01	真光寺村	松木六右衛門	1	83	18-02	柱道村	利根川太郎左近
6	3-02	真光寺村	松木喜兵衛	1	84	18-03	柱道村	利根川六兵衛
7	3-03	真光寺村	中林佐兵衛	1	85	18-04	柱道村	利根川善右衛門
8	3-04	真光寺村	徳左衛門	1	86	18-05	柱道村	利根川太郎左近★・内方
9	3-05	真光寺村	徳右衛門	1	87	19-01	下倉村	池田与二右衛門
10	4-01	水保村	広川長右衛門・妻	2	88	19-02	下倉村	池田与惣右衛門
11	4-02	水保村	広川源二右衛門	1	89	19-03	下倉村	池田安左衛門
12	4-03	水保村	広川源左衛門	1	90	20-01	高倉村	池尻久兵衛・妻
13	4-04	水保村	広川九郎左衛門	1	91	20-02	高倉村	茂兵衛
14	4-05	水保村	度鍋善右衛門	1	92	20-03	高倉村	池尻与右衛門・妻
15	4-06	水保村	山本孫右衛門	1	93	20-04	高倉村	池尻宗右衛門
16	4-07	水保村	山本伊藤作	1	94	20-05	高倉村	橋立新兵衛
17	4-08	水保村	小川太郎兵衛	1	95	20-06	高倉村	橋立由右衛門
18	4-09	水保村	小川覚右衛門	1	96	20-07	高倉村	橋立又兵衛
19	4-10	水保村	能光佐兵衛	1	97	20-08	高倉村	橋立文左衛門
20	4-11	水保村	鹿川源内	1	98	20-09	高倉村	橋立藤兵衛
21	4-12	水保村	鹿川九右衛門	1	99	20-10	高倉村	橋立卯右衛門
22	4-13	水保村	鹿川九左衛門	1	100	20-11	高倉村	橋立甚左衛門
23	4-14	水保村	小川吉三郎	1	101	20-12	高倉村	橋立清右衛門
24	4-15	水保村	小川津右衛門	1	102	20-13	高倉村	木村孫左衛門
25	5-01	道平村	金子六右衛門	1	103	21-01	植村(植村か)	伊井儀八
26	6-01	真木村	斉藤文右衛門	1	104	21-02	植村(植村か)	伊能十右衛門
27	6-02	真木村	斉藤由左衛門	1	105	21-03	植村(植村か)	伊能角左衛門
28	6-03	真木村	斉藤作右衛門	1	106	22-01	川詰村	平塚孫右衛門
29	6-04	真木村	斉藤吉右衛門	1	107	22-02	川詰村	平塚勘助
30	6-05	真木村	猪又太郎兵衛	1	108	22-03	川詰村	平塚由兵衛
31	6-06	真木村	猪又利右衛門	1	109	22-04	川詰村	平塚治兵衛
32	6-07	真木村	猪又善右衛門	1	110	22-05	川詰村	平塚七左衛門
33	7-01	栗倉村	猪又新右衛門	1	111	23-01	溝尾村	佐藤四右衛門
34	7-02	栗倉村	猪又太左衛門	1	112	23-02	溝尾村	佐藤友右衛門
35	7-03	栗倉村	猪又治郎兵衛	1	113	23-03	溝尾村	佐藤武右衛門
36	7-04	栗倉村	猪又梅右衛門	1	114	23-04	溝尾村	菅間勘右衛門
37	7-05	栗倉村	猪又安之丞	1	115	23-05	溝尾村	菅間治右衛門
38	7-06	栗倉村	猪又三右衛門	1	116	23-06	溝尾村	早津齋左衛門
39	7-07	栗倉村	猪又七之丞	1	117	23-07	溝尾村	山口(2字難読)彦右衛門
40	7-08	栗倉村	猪又久三郎	1	118	24-01	須川村	斉藤七左衛門
41	8-01	来海沢村	猪又五兵衛	1	119	24-02	須川村	斉藤藤七
42	9-01	市野々村	岡庭新兵衛	1	120	25-01	田妻村	芳沢藤右衛門
43	9-02	市野々村	松沢太郎作	1	121	26-01	西蒲生田村	齋左衛門
44	9-03	市野々村	松沢権九郎	1	122	26-02	西蒲生田村	小降源五右衛門
45	9-04	市野々村	野崎源左衛門	1	123	27-01	上今井中村	伝左衛門
46	9-05	市野々村	岡庭六右衛門	1				
47	9-06	市野々村	岡庭新左衛門	1	124	28-01	上田	小嶋大治郎藤原弘孝(鋳物師大工職)
48	9-07	市野々村	井久文右衛門	1	125	29-01	大町	曾根原伊左衛門
49	9-08	市野々村	野崎長右衛門	1	126	29-02	大町	百七新右衛門
50	9-09	市野々村	野崎八右衛門	1	127	29-03	大町	海川茂左衛門
51	10-01	御前山村	田原九郎右衛門	1	128	29-04	大町	杉本五左衛門
52	10-02	御前山村	田原伊左衛門	1	129	29-05	大町	遠藤与七
53	11-01	和泉村	北村二郎右衛門	1	130	29-06	大町	曾根原相右衛門
54	11-02	和泉村	北村佐右衛門	1	131	29-07	大町	平林佐右衛門
55	11-03	和泉村	北村金十郎	1	132	29-08	大町	北村梧右衛門
56	11-04	和泉村	北村善九郎	1	133	29-09	大町	清水忠五郎
57	11-05	和泉村	北村磯右衛門	1	134	29-10	大町	清水安右衛門
58	11-06	和泉村	北村藤右衛門	1	135	30-01	松崎村	高橋兵藏
59	11-07	和泉村	北村銀右衛門	1	136	30-02	松崎村	松倉佐右衛門
60	11-08	和泉村	北村道の・妻	2	137	30-03	松崎村	八丁武左衛門
61	12-01	上山村	通白	1	138	30-04	松崎村	降旗七郎右衛門・母
62	13-01	大工屋敷村	北村平兵衛	1	139	30-05	松崎村	関半右衛門
63	13-02	大工屋敷村	北村平左衛門	1	140	30-06	松崎村	高橋佐五兵衛
64	13-03	大工屋敷村	北村吉兵衛	1	141	30-07	松崎村	関志左衛門
65	14-01	稲場村	真道房	1	142	30-08	松崎村	遠藤彦左衛門
66	14-02	稲場村	猪俣太左衛門	1	143	30-09	松崎村	高橋善兵衛
67	14-03	稲場村	猪俣兼右衛門	1	144	30-10	松崎村	越原九左衛門
68	15-01	山口村	吉田涛右衛門	1	145	30-11	松崎村	降旗弥宗左衛門
69	15-02	山口村	田上友右衛門	1	146	30-12	松崎村	降旗伝兵衛
70	15-03	山口村	吉田忠治八	1	147	30-13	松崎村	飯嶋新右衛門
71	16-01	木浦村	岩崎市郎左衛門	1	148	31-01	籠之内村	原又五郎
72	16-02	木浦村	伴藤彦右衛門	1	149	31-02	籠之内村	原又助
73	16-03	木浦村	小竹五郎右衛門	1	150	31-03	籠之内村	原又蔵
74	16-04	木浦村	伴藤太左衛門	1	151	31-04	籠之内村	川内十蔵
75	16-05	木浦村	かみや円右衛門	1	152	31-05	籠之内村	堀田茂左衛門

153	31-06	鑑之内村	伊藤作左衛門	1	231	40-05	仏崎村	奥原仙三	1
154	31-07	鑑之内村	伊藤伊左衛門	1	232	40-06	仏崎村	奥原甚三郎	1
155	31-08	鑑之内村	伊藤作兵衛	1	233	40-07	仏崎村	降旗庄左衛門	1
156	31-09	鑑之内村	伊藤角之丞	1	234	40-08	仏崎村	降旗又右衛門	1
157	31-10	鑑之内村	伊藤嘉左衛門	1	235	40-09	仏崎村	牛塚弥左衛門	1
158	31-11	鑑之内村	伊藤七郎左衛門	1	236	40-10	仏崎村	荒井兵衛	1
159	31-12	鑑之内村	中嶋七之丞	1	237	40-11	仏崎村	荒井藤平	1
160	31-13	鑑之内村	中嶋北右衛門	1	238	40-12	仏崎村	荒井五兵衛	1
161	31-14	鑑之内村	中嶋吉右衛門	1	239	40-13	仏崎村	藤原卯右衛門	1
162	31-15	鑑之内村	中嶋市郎右衛門	1	240	41-01	清水村	中村太右衛門	1
163	31-16	鑑之内村	中嶋孫三郎	1	241	41-02	清水村	大上光右衛門	1
164	32-01	木船村	内川弥宗治	1	242	41-03	清水村	大上由右衛門	1
165	32-02	木船村	内川梅右衛門	1	243	41-04	清水村	口(1字難読) 出嘉右衛門	1
166	32-03	木船村	山岸源藏	1	244	41-05	清水村	川上藤七	1
167	32-04	木船村	山岸治郎兵衛	1	245	41-06	清水村	川上善右衛門	1
168	33-01	常光寺村	横川喜宗治	1	246	41-07	清水村	赤上新右衛門・妻	2
169	33-02	常光寺村	矢口新十郎	1	247	42-01	須沼村	清水嘉左衛門	1
170	33-03	常光寺村	矢口弥五郎・妻	2	248	42-02	須沼村	清水松斎	1
171	33-04	常光寺村	矢口忠左衛門	1	249	42-03	須沼村	横山孫右衛門	1
172	33-05	常光寺村	高山千右衛門	1	250	42-04	須沼村	一志源三郎	1
173	33-06	常光寺村	高山勝右衛門	1	251	42-05	須沼村	等々力善五右衛門	1
174	33-07	常光寺村	高山常右衛門	1	252	42-06	須沼村	柿沢宗兵衛	1
175	33-08	常光寺村	松岡茂右衛門	1	253	42-07	須沼村	一志弥四郎	1
176	34-01	間田村	内川佐太郎	1	254	42-08	須沼村	西山林右衛門	1
177	34-02	間田村	内川新七	1	255	42-09	須沼村	清水為右衛門	1
178	34-03	間田村	中嶋兵衛	1	256	42-10	須沼村	清水定右衛門	1
179	34-04	間田村	遠藤久藏	1	257	42-11	須沼村	宇留川熊吉	1
180	34-05	間田村	曾根原利兵衛	1	258	42-12	須沼村	大田喜四郎	1
181	34-06	間田村	柳沢忠治	1	259	42-13	須沼村	大田平左衛門	1
182	35-01	曾根原村	松田茂吉	1	260	42-14	須沼村	横山十左衛門	1
183	35-02	曾根原村	松田権七	1	261	43-01	西山村	合木富右衛門	1
184	35-03	曾根原村	松田又三	1	262	43-02	西山村	横沢平左衛門	1
185	35-04	曾根原村	隆ハタ政之右衛門	1	263	43-03	西山村	丸山彦助	1
186	35-05	曾根原村	隆ハタ清い右衛門	1	264	43-04	西山村	降旗七郎治	1
187	35-06	曾根原村	隆ハタ藤右衛門	1	265	43-05	西山村	降旗武左衛門	1
188	35-07	曾根原村	隆ハタ新七	1	266	43-06	西山村	平林兵右衛門	1
189	35-08	曾根原村	隆ハタ口(1字難読)右衛門	1	267	43-07	西山村	平林文左衛門	1
190	35-09	曾根原村	松井佐左衛門	1	268	43-08	西山村	降旗甚五左衛門	1
191	35-10	曾根原村	松井作右衛門	1	269	43-09	西山村	降旗藤右衛門	1
192	35-11	曾根原村	矢口佐平	1	270	43-10	西山村	横沢弥兵衛	1
193	36-01	宮本村	松田信藏	1	271	44-01	横瀬村	北沢宗左衛門	1
194	36-02	宮本村	松田勘左衛門	1	272	45-01	松川村	牛頭總十	1
195	36-03	宮本村	松田三郎右衛門	1	273	45-02	松川村	平野兵四郎	1
196	36-04	宮本村	一志弥宗治	1	274	45-03	松川村	平野依右衛門	1
197	36-05	宮本村	遠藤安左衛門	1	275	45-04	松川村	平野大左衛門	1
198	37-01	柿ノ木村	奥原半右衛門	1	276	45-05	松川村	平野九郎右衛門	1
199	37-02	柿ノ木村	奥原佐右衛門	1	277	45-06	松川村	横沢富之丞	1
200	37-03	柿ノ木村	奥原七右衛門	1	278	45-07	松川村	北条良左衛門	1
201	37-04	柿ノ木村	奥原清右衛門	1	279	45-08	松川村	宮沢武平二	1
202	37-05	柿ノ木村	古旗佐平治	1	280	45-09	松川村	一柳与右衛門	1
203	37-06	柿ノ木村	古沢庄兵衛	1	281	45-10	松川村	一柳市左衛門	1
204	37-07	柿ノ木村	古畑九郎右衛門	1	282	45-11	松川村	一柳七郎右衛門	1
205	37-08	柿ノ木村	古旗権三郎	1	283	45-12	松川村	平村茂右衛門・家内	2
206	37-09	柿ノ木村	古旗五右衛門	1	284	45-13	松川村	浅原与五兵衛	1
207	37-10	柿ノ木村	奥原又左衛門	1	285	45-14	松川村	中嶋之丞	1
208	37-11	柿ノ木村	奥原平左衛門	1	286	45-15	松川村	降旗庄左衛門	1
209	37-12	柿ノ木村	西戸牛二郎	1	287	45-16	松川村	奥原甚三郎	1
210	38-01	一本木村	手塚源左衛門	1	288	45-17	松川村	赤沢五郎左衛門	1
211	38-02	一本木村	西沢半治郎	1	289	45-18	松川村	柳本回右衛門	1
212	38-03	一本木村	奥原平左衛門	1	290	45-19	松川村	熊井藤右衛門	1
213	39-01	上一本木村	降旗甚藏	1	291	45-20	松川村	利季田十左衛門	1
214	39-02	上一本木村	藤巻弥右衛門	1	292	45-21	松川村	堀内徳右衛門	1
215	39-03	上一本木村	長沢源兵衛	1	293	45-22	松川村	横沢政右衛門	1
216	39-04	上一本木村	小沢左右衛門	1	294	45-23	松川村	一柳市右衛門	1
217	39-05	上一本木村	小沢助右衛門	1	295	45-24	松川村	大田十二郎	1
218	39-06	上一本木村	小沢新右衛門	1	296	45-25	松川村	丸山由右衛門・母	2
219	39-07	上一本木村	奥原善藏	1	297	45-26	松川村	赤羽利口(1字難読)	1
220	39-08	上一本木村	奥原九郎右衛門	1	298	45-27	松川組	一柳七郎右衛門	1
221	39-09	上一本木村	降旗常右衛門	1	299	45-28	松川組	浅原牛丑兵衛・母	2
222	39-10	上一本木村	清水半蔵	1	300	45-29	松川組	中嶋権之丞	1
223	39-11	上一本木村	清水善次郎	1	301	45-30	松川組	水野崎吉	1
224	39-12	上一本木村	教西	1	302	45-31	松川組	与五兵衛・母	2
225	39-13	上一本木村	藤巻伝兵衛	1	303	45-32	松川組	平林弥左衛門	1
226	39-14	上一本木村	藤巻小右衛門	1	304	45-33	松川組	平林庄左衛門	1
227	40-01	仏崎村	奥原仙治郎	1	305	45-34	松川組	平林弁右衛門	1
228	40-02	仏崎村	荒井半兵衛	1	306	45-35	松川組	平林権左衛門	1
229	40-03	仏崎村	栗林武四郎	1	307	45-36	松川組	平林藤左衛門	1
230	40-04	仏崎村	栗林市右衛門	1	308	45-37	松川組	平林定之丞	1
230	40-04	仏崎村	栗林市右衛門	1	309	45-38	松川組	北条治左衛門	1

310	45-39	松川組	日沢二郎左衛門			389	48-26	細野村	中山政左衛門★	0
311	45-40	松川組	日沢半平	1		390	48-27	細野村	大田彦兵衛	1
312	45-41	松川組	日沢佐右衛門	1		391	48-28	細野村	平林得左衛門★	0
313	45-42	松川組	山本治兵衛	1		392	48-29	細野村	平林勘五郎★	0
314	45-43	松川組	平村周藏	1		393	48-30	細野村	矢口角兵衛★	0
315	45-44	松川組	平村梅太郎	1		394	48-31	細野村	奥原喜右衛門★	0
316	45-45	松川組	富田直右衛門	1		395	48-32	細野村	奥原長兵衛★	0
317	45-46	松川組	山本佐市	1		396	48-33	細野村	奥原利右衛門★	0
318	45-47	松川組	赤沢源八	1		397	48-34	細野村	北原勇史郎	1
319	46-01	坂取村	丸山徳三郎●	1		398	49-01	正科村	大沢新右衛門	1
320	46-02	坂取村	中山嘉十	1		399	49-02	正科村	密沢嘉右衛門	1
321	46-03	坂取村	一柳一郎右衛門●	1		400	49-03	正科村	密沢和二郎	1
322	46-04	坂取村	久保田作二郎	1		401	49-04	正科村	中条六左衛門	1
323	46-05	坂取村	久保田佐右衛門	1		402	49-05	正科村	嶋田市郎右衛門	1
324	46-06	坂取村	今水源左衛門●	1		403	49-06	正科村	密沢長左衛門	1
325	46-07	坂取村	平川牛太郎●	1		404	49-07	正科村	密沢川(1字難読)蔵	1
326	46-08	坂取村	尾曾武平治	1		405	49-08	正科村	密沢長右衛門	1
327	46-09	坂取村	梨子田久左衛門	1		406	49-09	正科村	密沢勝左衛門	1
328	46-10	坂取村	山崎善三郎●	1		407	49-10	正科村	密沢弥五右衛門	1
329	46-11	坂取村	丸山源兵衛●	1		408	49-11	正科村	中嶋七之丞	1
330	46-12	坂取村	柳本徳次郎●	1		409	49-12	正科村	帯刀要右衛門	1
331	46-13	坂取村	宮田亀吉●	1		410	49-13	正科村	松沢シゲ之丞	1
332	46-14	坂取村	丸山武兵衛	1		411	49-14	正科村	村山半左衛門	1
333	46-15	坂取村	下条藤七	1		412	49-15	正科村	山之寺	1
334	46-16	坂取村	米倉久之丞	1		413	50-01	堀之内村	堀内金左衛門	1
335	46-17	坂取村	芳賀伝二郎	1		414	50-02	堀之内村	米久保源二	1
336	46-18	坂取村	山崎善三郎★	0		415	50-03	堀之内村	薄井藤蔵	1
337	46-19	坂取村	丸山徳三郎★	0		416	50-04	堀之内村	薄井儀兵衛	1
338	46-20	坂取村	丸山源兵衛★	0		417	50-05	堀之内村	貝梅久三郎	1
339	46-21	坂取村	丸山弥五郎	1		418	50-06	堀之内村	貝梅金右衛門	1
340	46-22	坂取村	中山嘉吉	1		419	50-07	堀之内村	貝梅久左衛門	1
341	46-23	坂取村	今水源左衛門★	0		420	50-08	堀之内村	西山十左衛門	1
342	46-24	坂取村	一柳市郎右衛門★	0		421	50-09	堀之内村	西山五右衛門	1
343	46-25	坂取村	久保田矢治郎	1		422	50-10	堀之内村	大田治郎助	1
344	46-26	坂取村	久保田佐右衛門	1		423	50-11	堀之内村	湊田幸七	1
345	46-27	坂取村	平川丑太郎★	0		424	50-12	堀之内村	米久保源治	1
346	46-28	坂取村	尾曾田武吉	1		425	51-01	池田町	太田八郎右衛門	1
347	46-29	坂取村	利孝久左衛門	1		426	51-02	池田町	太田兵治郎	1
348	46-30	坂取村	柳本徳治郎★	0		427	51-03	池田町	井口文左衛門	1
349	46-31	坂取村	宮田亀吉★	0		428	51-04	池田町	伊藤新十郎	1
350	46-32	坂取村◎	新野太兵衛	1		429	51-05	池田町	矢口文蔵	1
351	46-33	坂取村	高橋利左衛門	1		430	51-06	池田町	浅原喜右衛門	1
352	46-34	坂取村	西山庄左衛門	1		431	51-07	池田町	小林茂助	1
353	46-35	坂取村	芳賀磯右衛門	1		432	52-01	滝沢村	片七丈忠衛	1
354	47-01	神戸村	中嶋茂助	1		433	52-02	滝沢村	片世富治	1
355	47-02	神戸村	湯ノ口末忠治●	1		434	52-03	滝沢村	片世藤五郎	1
356	47-03	神戸村	市川弥治郎●	1		435	52-04	滝沢村	片世品右衛門	1
357	47-04	神戸村	葉林治兵衛●	1		436	52-05	滝沢村	片世清五郎	1
358	47-05	神戸村	市川弥治郎★	0		437	52-06	滝沢村	片世藤右衛門	1
359	47-06	神戸村	中嶋武助	1		438	52-07	滝沢村	白沢吉左衛門	1
360	47-07	神戸村	湯野太忠治★	0		439	52-08	滝沢村	片世孫七	1
361	47-08	神戸村	葉林治兵衛★	0		440	52-09	滝沢村	荒井喜宗派二	1
362	47-09	神戸村	口(1字難読)葉儀兵衛	1		441	52-10	滝沢村	荒井清左衛門	1
363	47-10	神戸村	湯野口吉郎衛	1		442	52-11	滝沢村	荒井定八	1
364	48-01	細野村	高田栄蔵●	1		443	52-12	滝沢村	荒井平八	1
365	48-02	細野村	高田藤八●	1		444	52-13	滝沢村	赤羽久七	1
366	48-03	細野村	中山新右衛門●	1		445	52-14	滝沢村	矢口富四郎	1
367	48-04	細野村	中山角左衛門●	1		446	52-15	滝沢村	矢口熊右衛門	1
368	48-05	細野村◎	平林徳左衛門●	1		447	52-16	滝沢村	矢口嘉助	1
369	48-06	細野村	矢口角兵衛●	1		448	52-17	滝沢村	矢口忠助	1
370	48-07	細野村	奥原長兵衛●	1		449	52-18	滝沢村	矢口幾三郎	1
371	48-08	細野村	奥原喜宗右衛門●	1		450	52-19	滝沢村	矢口喜太郎	1
372	48-09	細野村	奥原忠左衛門	1		451	52-20	滝沢村	村山八郎治	1
373	48-10	細野村	奥原利右衛門●	1		452	52-21	滝沢村	植嶋宗治郎	1
374	48-11	細野村	平林勘五郎●	1		453	53-01	内鑓村	田中市郎右衛門	1
375	48-12	細野村	中山政左衛門●	1		454	53-02	内鑓村	茂田助右衛門	1
376	48-13	細野村	高田圃右衛門	1		455	53-03	内鑓村	平林藤兵衛	1
377	48-14	細野村	高田栄次郎	1		456	53-04	内鑓村	口口(2字難読)茂十郎	1
378	48-15	細野村	比原勇四郎	1		457	53-05	内鑓村	田中房右衛門	1
379	48-16	細野村	西山庄左衛門	1		458	54-01	洪田見村	小林平左衛門	1
380	48-17	細野村	新野太兵衛	1		459	54-02	洪田見村	山崎辰次郎	1
381	48-18	細野村	丸山弥五郎	1		460	54-03	洪田見村	山崎幸助	1
382	48-19	細野村	高田栄★	0		461	54-04	洪田見村	山崎清右衛門	1
383	48-20	細野村	藤八(高田藤八)★	0		462	54-05	洪田見村	大嶋久蔵	1
384	48-21	細野村	岡右衛門	1		463	54-06	洪田見村	高山佐兵衛	1
385	48-22	細野村	高田栄治	1		464	54-07	洪田見村	於キ卜	1
386	48-23	細野村	高田藤左衛門	1		465	54-08	洪田見村	高山市右衛門	1
387	48-24	細野村	中山新右衛門★	0		466	54-09	洪田見村	山本弥右衛門	1
388	48-25	細野村	中山各左衛門★	0						

467	54-10	洪田見村	山崎治左衛門	1	545	67-04	狐島村	高橋右衛門	1
468	54-11	洪田見村	山崎兵藏	1	546	67-05	狐島村	高橋右衛門	1
469	54-12	洪田見村	山崎兵四郎	1	547	67-06	狐島村	高橋右衛門	1
470	54-13	洪田見村	山崎卯右衛門	1	548	67-07	狐島村	高橋右衛門	1
471	54-14	洪田見村	山崎兵左衛門	1	549	67-08	狐島村	高橋右衛門	1
472	54-15	洪田見村	山崎八三郎	1	550	67-09	狐島村	高橋右衛門	1
473	54-16	洪田見村	山崎兵八	1	551	67-10	狐島村	丸山文三郎	1
474	54-17	洪田見村	棟葉小平治	1	552	67-11	狐島村	山崎利右衛門	1
475	54-18	洪田見村	松田佐右衛門	1	553	67-12	狐島村	高橋藤四郎	1
476	54-19	洪田見村	佛岡藤左衛門	1	554	67-13	狐島村	丸山祐右衛門	1
477	54-20	洪田見村	松倉庄左衛門	1	555	67-14	狐島村	高橋仙左衛門	1
478	54-21	洪田見村	矢口良左衛門	1	556	67-15	狐島村	望月兼之丞	1
479	54-22	洪田見村	山本嘉右衛門	1	557	67-16	狐島村	望月兼七	1
480	54-23	洪田見村	大藤助藏	1	558	67-17	狐島村	望月久左衛門	1
481	54-24	洪田見村	北沢太忠治	1	559	68-01	矢原村	西沢平右衛門	1
482	55-01	十日市場村	内山近右衛門	1	560	68-02	矢原村	西沢富左衛門	1
483	55-02	十日市場村	内山門吉	1	561	68-03	矢原村	臼井善之助	1
484	56-01	鶴山村	矢口吉藏	1	562	68-04	矢原村	深沢弥右衛門	1
485	57-01	中之郷村	宮崎七之丞	1	563	68-05	矢原村	臼井弥五郎	1
486	57-02	中之郷村	丸山三右衛門	1	564	68-06	矢原村	臼井弥五右衛門	1
487	57-03	中之郷村	宮下善右衛門	1	565	68-07	矢原村	中村平左衛門	1
488	57-04	中之郷村	滝沢善左衛門	1	566	68-08	矢原村	口(1字難読) 柳茂平衛	1
489	57-05	中之郷村	宮崎茂兵衛	1	567	68-09	矢原村	相馬嘉左衛門	1
490	57-06	中之郷村	宮崎善太右衛門	1	568	68-10	矢原村	相馬安兵衛	1
491	57-07	中之郷村	原田藤四郎	1	569	69-01	牧村	降幡庄左衛門	1
492	57-08	中之郷村	丸山三五	1	570	69-02	牧村	降幡弥左衛門	1
493	57-09	中之郷村	滝沢治郎左衛門	1	571	69-03	牧村	宮崎弥勝	1
494	57-10	中之郷村	滝沢弥宗治	1	572	69-04	牧村	藤原与右衛門	1
495	57-11	中之郷村	滝沢弥兵衛	1	573	69-05	牧村	吉原弥左衛門	1
496	57-12	中之郷村	又兵衛・妻	2	574	70-01	上押野村	古口(2字難読) 武右衛門	1
497	57-13	中之郷村	滝沢富右衛門	1	575	70-02	上押野村	於きん	1
498	57-14	中之郷村	滝沢又右衛門	1	576	70-03	上押野村	宮下久左衛門	1
499	58-01	北山村	北條光兵衛	1	577	70-04	上押野村	矢花真兵衛	1
500	59-01	古原村	曾根原武右衛門	1	578	70-05	上押野村	高山久右衛門	1
501	59-02	古原村	口(1字難読) 賀弥三吉	1	579	70-06	上押野村	矢花弁右衛門	1
502	59-03	古原村	池上吉兵衛	1	580	70-07	上押野村	矢花平藏	1
503	59-04	古原村	坂巻作治郎	1	581	70-08	上押野村	矢花市郎兵衛	1
504	59-05	古原村	百世孫三郎	1	582	70-09	上押野村	矢花松治郎	1
505	60-01	新屋村	武井門右衛門	1	583	70-10	上押野村	矢花森藏	1
506	60-02	新屋村	林儀藏	1	584	70-11	上押野村	宮下庄右衛門	1
507	60-03	新屋村	林藤左衛門	1	585	70-12	上押野村	宮下孫左衛門	1
508	60-04	新屋村	山本常右衛門	1	586	70-13	上押野村	小林兵治	1
509	61-01	嶋新田村	武井宗治郎	1	587	70-14	上押野村	渡辺安右衛門	1
510	61-02	嶋新田村	武井奥之右衛門	1	588	70-15	上押野村	下里梅吉	1
511	61-03	嶋新田村	武井乙右衛門	1	589	71-01	下押野村	矢花大右衛門	1
512	62-01	青木花見村	二木清右衛門	1	590	71-02	下押野村	矢花藤左衛門	1
513	62-02	青木花見村	上条源右衛門	1	591	71-03	下押野村	矢花与五右衛門	1
514	63-01	青木新田村	唐岩久五郎	1	592	71-04	下押野村	矢花助右衛門	1
515	64-01	等々力村	津沢寛左衛門	1	593	71-05	下押野村	矢花甚兵衛	1
516	64-02	等々力村	津沢民右衛門	1	594	71-06	下押野村	矢花善七	1
517	64-03	等々力村	等々力善右衛門	1	595	71-07	下押野村	下野伊左衛門	1
518	64-04	等々力村	等々力孫右衛門	1	596	71-08	下押野村	下野治郎右衛門	1
519	64-05	等々力村	等々力龜吉	1	597	71-09	下押野村	下野七郎右衛門	1
520	64-06	等々力村	於きヨ	1	598	71-10	下押野村	宮沢清右衛門	1
521	64-07	等々力村	辰二郎	1	599	71-11	下押野村	高田紋右衛門	1
522	64-08	等々力村	等々力治右衛門	1	600	72-01	堀川原村	堀内勘五	1
523	64-09	等々力村	等々力理兵治・母	2	601	72-02	堀川原村	堀内九郎治	1
524	64-10	等々力村	等々力定右衛門	1	602	72-03	堀川原村	堀内保右衛門	1
525	64-11	等々力村	三五郎	1	603	72-04	堀川原村	望月十三郎	1
526	64-12	等々力村	等々力伴右衛門	1	604	72-05	堀川原村	真崎市郎二	1
527	64-13	等々力村	等々力弥三郎	1	605	73-01	北海道村	横山幾源治	1
528	64-14	等々力村	等々力嘉左衛門	1	606	74-01	扇町	唐沢田宗治	1
529	64-15	等々力村	等々力善右衛門	1	607	75-01	下郷町	黒岩藤十	1
530	64-16	等々力村	望月弥兵衛	1	608	75-02	下郷町	黒岩弥七	1
531	64-17	等々力村	望月源左衛門	1	609	75-03	下郷町	山田文七	1
532	64-18	等々力村	望月権右衛門	1	610	75-04	下郷金村	平林金助	1
533	64-19	等々力町	望月祐右衛門	1	611	75-05	下郷金村	黒岩助右衛門	1
534	64-20	等々力村	井口長三郎	1	612	75-06	下郷金村	増山半六	1
535	64-21	等々力村	井口勘藏	1	613	75-07	下郷金村	黒岩市太郎	1
536	65-01	貝梅村	田中弥三郎	1	614	75-08	下郷金村	黒岩長之介	1
537	65-02	貝梅村	藤ノ藤太郎	1	615	75-09	下郷金村	黒岩助右衛門	1
538	65-03	貝梅村	臼井善右衛門	1	616	75-10	下郷金村	平林金介	1
539	66-01	白金村	相馬久藏	1	617	75-11	下郷金村	平林八三郎	1
540	66-02	白金村	相馬安兵衛	1	618	75-12	下郷金村	平倉甚右衛門	1
541	66-03	白金村	坂取宗十	1	619	75-13	下郷金村	飯沼田四郎	1
542	67-01	狐島村	望月久左衛門	1	620	75-14	下郷金村	牛越友右衛門	1
543	67-02	狐島村	高橋吉之丞	1	621	75-15	下郷金村	小林源治郎	1
544	67-03	狐島村	丸山嘉右衛門	1	622	75-16	下郷金村	竹内七郎右衛門	1

623	75-17	下堀金村	竹内与右衛門	1	701	83-15	下中壘村	小林平兵衛	1
624	75-18	下堀金村	清沢伝八	1	702	83-16	下中壘村	小林岡右衛門	1
625	75-19	下堀金村	塚田作左衛門	1	703	83-17	下中壘村	小林彦右衛門	1
626	75-20	下堀金村	青柳新右衛門	1	704	83-18	下中壘村	白沢治右衛門	1
627	75-21	下堀金村	口(1字難読)長左衛門	1	705	83-19	下中壘村	松平右衛門	1
628	76-01	中堀町	和田治郎右衛門	1	706	83-20	下中壘村	平塚善藏	1
629	76-02	中堀町	栗原祐八	1	707	83-21	下中壘村	恒原一十	1
630	76-03	中堀町	石川八十右衛門	1	708	83-22	下中壘村	恒原弥宗右衛門	1
631	76-04	中堀町	鈴木祐二郎	1	709	83-23	下中壘村	恒原嘉右衛門	1
632	76-05	中堀村	舟岡猶吉	1	710	83-24	下中壘村	牛山安口(1字難読)	1
633	76-06	中堀村	丸山弥三郎	1	711	83-25	下中壘村	加科奎之丞	1
634	76-07	中堀村	林久太郎	1	712	83-26	下中壘村	加科利左衛門	1
635	77-01	田多井村	坂花平右衛門	1	713	83-27	下中壘村	白沢利兵衛	1
636	77-02	田多井村	坂花善治郎	1	714	83-28	下中壘村	白沢代治郎	1
637	77-03	田多井村	坂花文蔵	1	715	83-29	下中壘村	白沢加兵衛	1
638	77-04	田多井村	三沢富五郎	1	716	84-01	二木村	清沢忠八	1
639	77-05	田多井村	高橋作右衛門	1	717	84-02	二木村	高橋貞兵衛	1
640	77-06	田多井村	高橋忠蔵	1	718	84-03	二木村	高橋平兵衛・妻	2
641	77-07	田多井村	鹿川茂五郎	1	719	84-04	二木村	高橋口(1字難読)吉	1
642	78-01	熊倉村	藤木周右衛門・妻	2	720	84-05	二木村	曾根太吉	1
643	79-01	飯田村	飯田喜代太郎	1	721	84-06	二木村	下田孫左衛門	1
644	79-02	飯田村	飯田国五郎	1	722	84-07	二木村	利左衛門	1
645	79-03	飯田村	竹内孫左衛門	1	723	84-08	二木村	巻口吉三郎	1
646	79-04	飯田村	飯田茂平治	1	724	84-09	二木村	四郎兵衛	1
647	79-05	飯田村	山田源三郎	1	725	84-10	二木村	巻洲助右衛門	1
648	79-06	飯田村	飯田国五郎	0	726	85-01	下長尾村	松岡源十	1
649	79-07	飯田村	飯田喜代太郎	0	727	85-02	下長尾村	松岡平七	1
650	79-08	飯田村	飯田茂平治	0	728	85-03	下長尾村	中村平右衛門	1
651	79-09	飯田村	竹内孫左衛門	0	729	85-04	下長尾村	森山熊治郎	1
652	79-10	飯田村	竹内与右衛門	1	730	85-05	下長尾村	中嶋助五郎	1
653	79-11	飯田村	竹内勘兵衛	1	731	85-06	下長尾村	柴野九内右衛門	1
654	79-12	飯田村	大口(1字難読)喜右衛門	1	732	86-01	野沢村	降旗政右衛門	1
655	79-13	飯田村	飯田力右衛門	1	733	86-02	野沢村	降旗房右衛門	1
656	79-14	飯田村	飯田七兵衛	1	734	86-03	野沢村	降旗権右衛門	1
657	79-15	飯田村	手塚喜代三郎	1	735	86-04	野沢村	降旗伊兵衛	1
658	80-01	北小倉村	上条勘五郎	1	736	86-05	野沢村	降旗喜代三郎	1
659	80-02	北小倉村	松田文右衛門	1	737	86-06	野沢村	木崎善平治	1
660	80-03	北小倉村	松尾国太郎	1	738	86-07	野沢村	小沢作右衛門	1
661	80-04	北小倉村	布山孫右衛門	1	739	86-08	野沢村	石島根吉三郎	1
662	80-05	北小倉村	布山吉重	1	740	86-09	野沢村	務口(1字難読)善左衛門	1
663	80-06	北小倉村	布山仁左衛門	1	741	86-10	野沢村	務口(1字難読)嘉兵衛	1
664	80-07	北小倉村	茂助	1	742	86-11	野沢村	辺見文右衛門	1
665	80-08	北小倉村	大倉伊左衛門	1	743	86-12	野沢村	辺見新右衛門	1
666	80-09	北小倉村	大倉想左衛門	1	744	86-13	野沢村	務口(1字難読)久左衛門	1
667	80-10	北小倉村	大倉平左衛門	1	745	86-14	野沢村	務口(1字難読)伴右衛門	1
668	80-11	北小倉村	上条団左衛門	1	746	86-15	野沢村	務口(1字難読)熊二郎	1
669	80-12	北小倉村	上条嘉三郎	1	747	86-16	野沢村	樋口政五郎	1
670	80-13	北小倉村	薩幡林右衛門	1	748	86-17	野沢村	樋口祐四郎	1
671	80-14	北小倉村	増田藤右衛門	1	749	87-01	中塔村	二村伊右衛門	1
672	80-15	北小倉村	吉田菊五郎	1	750	87-02	中塔村	二村助之丞	1
673	80-16	北小倉村	吉田菊治郎	1	751	87-03	中塔村	二村辰太郎	1
674	81-01	南小倉村	中田平蔵	1	752	87-04	中塔村	二村善兵衛	1
675	81-02	南小倉村	松沢兵四郎	1	753	87-05	中塔村	二村幸太郎	1
676	82-01	上中壘村	野本佐五兵衛	1	754	87-06	中塔村	二村嘉之右衛門	1
677	82-02	上中壘村	富沢茂助	1	755	87-07	中塔村	二村佐兵衛	1
678	82-03	上中壘村	多田代右衛門	1	756	87-08	中塔村	二村八右衛門	1
679	82-04	上中壘村	多田文蔵	1	757	87-09	中塔村	二村二郎右衛門	1
680	82-05	上中壘村	多田為右衛門	1	758	87-10	中塔村	二村嘉右衛門	1
681	82-06	上中壘村	多田孫之丞	1	759	87-11	中塔村	藤村助右衛門	1
682	82-07	上中壘村	富沢茂兵衛	1	760	88-01	小室村	佐原内右衛門	1
683	82-08	上中壘村	富沢茂右衛門	1	761	88-02	小室村	佐原松右衛門	1
684	82-09	上中壘村	加科弥吉右衛門	1	762	88-03	小室村	北沢善右衛門	1
685	82-10	上中壘村	加科弥五左衛門	1	763	88-04	小室村	樽沼長八	1
686	82-11	上中壘村	野本喜代太	1	764	88-05	小室村	樽沼善平二	1
687	83-01	下中壘村	白沢治郎右衛門	1	765	88-06	小室村	樽沼象右衛門	1
688	83-02	下中壘村	小松平右衛門	1	766	88-07	小室村	樽沼源之丞	1
689	83-03	下中壘村	口口(2字難読)市郎右衛門	1	767	88-08	小室村	樽沼林右衛門	1
690	83-04	下中壘村	於キリ	1	768	88-09	小室村	樽沼泰太郎	1
691	83-05	下中壘村	上原喜太郎	1	769	88-10	小室村	樽沼亀吉	1
692	83-06	下中壘村	西牧弥三郎	1	770	88-11	小室村	樽沼回蔵	1
693	83-07	下中壘村	鈴木勝右衛門	1	771	88-12	小室村	佐原久右衛門	1
694	83-08	下中壘村	小松十郎治	1	772	88-13	小室村	佐原長右衛門	1
695	83-09	下中壘村	小松幸三郎	1	773	88-14	小室村	佐原弥右衛門	1
696	83-10	下中壘村	胡桃沢坂治郎	1	774	88-15	小室村	佐原佐右衛門	1
697	83-11	下中壘村	清沢庄太郎	1	775	88-16	小室村	佐原卜源三	1
698	83-12	下中壘村	中嶋吉吉	1	776	88-17	小室村	二村与次右衛門	1
699	83-13	下中壘村	藤岡源次郎	1	777	88-18	小室村	今井亀右衛門	1
700	83-14	下中壘村	小林二兵衛	1	778	88-19	小室村	今井亀五郎	1
700	83-14	下中壘村	小林二兵衛	1	779	88-20	小室村	丸山磯右衛門	1

780	88-21	小室村	村松吉右衛門	1	858	95-14	下波田村	与彦藏	1
781	88-22	小室村	鎌崎助兵衛	1	859	95-15	下波田村	大月弥三八・母	2
782	88-23	小室村	鎌崎利右衛門	1	860	96-01	中波田村	藤(興?)六左衛門	1
783	88-24	小室村	中沢治左衛門	1	861	96-02	中波田村	興与右衛門	1
784	89-01	北条村	三村竜右衛門	1	862	96-03	中波田村	興勝二郎	1
785	89-02	北条村	三村嘉之右衛門	1	863	96-04	中波田村	興友四郎	1
786	89-03	北条村	三村重兵衛	1	864	96-05	中波田村	興覚右衛門	1
787	89-04	北条村	藤井源左衛門	1	865	96-06	中波田村	安藤善太郎	1
788	89-05	北条村	大谷和平二	1	866	96-07	中波田村	安藤市右衛門	1
789	89-06	北条村	村七村二	1	867	96-08	中波田村	安藤源之丞	1
790	90-01	下角影村	柚山弥十	1	868	96-09	中波田村	安藤平吉	1
791	90-02	下角影村	小松与四郎	1	869	96-10	中波田村	百七菊藏	1
792	90-03	下角影村	小松嘉兵衛	1	870	96-11	中波田村	繁之丞	1
793	90-04	下角影村	齋品(ママ)角左衛門	1	871	96-12	中波田村	長七庄左衛門	1
794	90-05	下角影村	上嶋金五郎	1	872	96-13	中波田村	岩崎忠藏	1
795	90-06	下角影村	上兼藤三郎	1	873	96-14	中波田村	加場平十郎	1
796	90-07	下角影村	三口(1字難読)吉郎治	1	874	96-15	中波田村	古畑右四郎	1
797	90-08	下角影村	倉田勇右衛門	1	875	96-16	中波田村	古畑市左衛門	1
798	90-09	下角影村	梶野平兵衛	1	876	96-17	中波田村	水川太左衛門	1
799	90-10	下角影村	山崎佐右衛門	1	877	96-18	中波田村	水川与右衛門	1
800	90-11	下角影村	安坂平右衛門	1	878	96-19	中波田村	水川与七	1
801	90-12	下角影村	宮坂林右衛門	1	879	96-20	中波田村	中野善吉	1
802	90-13	下角影村	上嶋須之丞	1	880	97-01	上波田村	浅田城右衛門	1
803	90-14	下角影村	三枝吉郎治	1	881	97-02	上波田村	浅田長左衛門	1
804	91-01	立田村	角田吉也	1	882	97-03	上波田村	浅田牧右衛門	1
805	91-02	立田村	津田伊左衛門	1	883	97-04	上波田村	古畑武左衛門	1
806	91-03	立田村	川上太郎兵衛	1	884	97-05	上波田村	中嶋兵左衛門	1
807	91-04	立田村	二本金右衛門	1	885	97-06	上波田村	中嶋伝之助	1
808	91-05	立田村	二本嶋之助	1	886	97-07	上波田村	大月与五郎	1
809	91-06	立田村	西牧友吉	1	887	97-08	上波田村	村上小兵衛	1
810	91-07	立田村	武田由左衛門	1	888	97-09	上波田村	新之丞	1
811	91-08	立田村	西牧嘉吉	1	889	97-10	上波田村	済藤宗八	1
812	91-09	立田村	西牧利右衛門	1	890	97-11	上波田村	於コト	1
813	91-10	立田村	西牧仙左衛門	1	891	98-01	花見村	故桃院	1
814	91-11	立田村	西牧庄右衛門	1	892	98-02	花見村	山本善左衛門	1
815	91-12	立田村	西牧武治郎	1	893	99-01	松本城下	玉屋勘十	1
816	91-13	立田村	相馬省吾	1	894	99-02	松本城下	山屋嘉七	1
817	91-14	立田村	西沢宗介	1	895	99-03	松本城下	上条氏	1
818	91-15	立田村	藤岡三七	1	896	99-04	松本城下	生坂屋口(1字難読)	1
819	91-16	立田村	藤岡源二郎	1	897	99-05	松本城下	白石氏	1
820	91-17	立田村	西牧庄七	1	898	99-06	松本城下	山屋和吉	1
821	91-18	立田村	西牧庄左衛門	1	899	99-07	松本城下	植屋未藏	1
822	91-19	立田村	西牧祐吉	1	900	99-08	松本城下	栄屋久八	1
823	91-20	立田村	水谷清介	1	901	100-01	松本本町(立山講中)	松屋庄七	0
824	91-21	立田村	水谷忠左衛門	1	902	100-02	松本本町	白木屋孫右衛門	1
825	91-22	立田村	上村相兵衛	1	903	100-03	松本本町	大坂屋小三郎	1
826	91-23	立田村	三村源左衛門	1	904	100-04	松本本町	生坂屋喜兵衛	1
827	91-24	立田村	三村谷治郎	1	905	100-05	松本本町	世祿屋清七	1
828	91-25	立田村	原象之丞	1	906	100-06	松本本町	杉屋堂右衛門	1
829	91-26	立田村	吉沢五郎右衛門	1	907	100-07	松本本町	山田屋久治郎	1
830	91-27	立田村	川上佐右衛門	1	908	100-08	松本本町	菱屋喜兵衛	1
831	91-28	立田村	森本源藏	1	909	100-09	松本本町	練屋弥兵衛	1
832	91-29	立田村	いよ	1	910	100-10	松本本町	塩屋彦四郎	1
833	91-30	立田村	中沢嘉久治	1	911	100-11	松本本町	菊屋源右衛門	1
834	91-31	立田村	小松徳兵衛	1	912	101-01	松本中町	□□(2字難読)松屋平藏	1
835	92-01	岩岡村	富坂喜郎治	1	913	101-02	松本中町	布袋原利右衛門	1
836	92-02	岩岡村	岩岡万右衛門	1	914	101-03	松本中町	升屋与三兵衛	1
837	92-03	岩岡村	富坂政右衛門	1	915	101-04	松本中町	檜木屋勝兵衛	1
838	93-01	杵村	齋田久右衛門	1	916	101-05	松本中町	檜木屋孝吉	1
839	93-02	杵村	倉井磯兵衛	1	917	101-06	松本中町	日野屋久治郎	1
840	93-03	杵村	大池重藏	1	918	101-07	松本中町	加々屋喜右衛門	1
841	93-04	杵村	降幡繁之丞	1	919	101-08	松本中町	橋屋由右衛門	1
842	93-05	杵村	降幡伝三郎	1	920	101-09	松本中町	こく弥利右衛門	1
843	94-01	丸太村	樋口仁左衛門	1	921	101-10	松本中町	茶屋文右衛門	1
844	94-02	丸太村	伴五市郎	1	922	101-11	松本中町	松屋政右衛門	1
845	95-01	下波田村	百瀬平左衛門	1	923	101-12	松本中町	藤屋助九郎	1
846	95-02	下波田村	百瀬六之丞	1	924	101-13	松本中町	淀屋平藏	1
847	95-03	下波田村	百瀬大四郎	1	925	101-14	松本中町	大黒屋二兵衛	1
848	95-04	下波田村	大月弥右衛門	1	926	101-15	松本中町	吉沢嘉七	1
849	95-05	下波田村	大月近右衛門	1	927	101-16	松本中町	望月鉄太郎	1
850	95-06	下波田村	大月忠八	1	928	101-17	松本中町	猿屋万右衛門	1
851	95-07	下波田村	大月幸左衛門	1	929	101-18	松本中町	林栄二	1
852	95-08	下波田村	大月梅右衛門	1	930	101-19	松本中町	飛騨屋松右衛門	1
853	95-09	下波田村	大月太郎右衛門	1	931	101-20	松本中町	木屋平三郎	1
854	95-10	下波田村	大月弥三吉	1	932	101-21	松本中町	高田屋永藏	1
855	95-11	下波田村	大月勘十	1	933	101-22	松本中町	葛屋利七	1
856	95-12	下波田村	大月常二郎	1	934	101-23	松本中町	常治郎	1
857	95-13	下波田村	塩原乙四郎	1	935	102-01	松本飯田町	美穂屋佐原市右衛門尉正孝	1

936	103-01	松本博勞町	大作屋治郎右衛門	1	1014	110-04	小柴町	北野齋右衛門	1
937	103-02	松本博勞町	齋屋政右衛門	1	1015	110-05	小柴町	北野嘉平治	1
938	103-03	松本博勞町	小松屋伊兵衛	1	1016	110-06	小柴町	市沢権右衛門	1
939	103-04	松本博勞町	塩屋彦八	1	1017	111-01	新田村	沢山齋太郎	1
940	103-05	松本博勞町	扇屋豊吉	1	1018	112-01	嶋立町村	田中源左衛門	1
941	103-06	松本博勞町	一文字屋治兵衛	1	1019	112-02	嶋立町村	田中武右衛門	1
942	103-07	松本博勞町	兵田	1	1020	112-03	嶋立町村	村山八右衛門	1
943	103-08	松本博勞町	平田庄太郎	1	1021	112-04	嶋立町村	村山身一右衛門	1
944	103-09	松本博勞町	山本太右衛門	1	1022	112-05	嶋立町村	田中林右衛門	1
945	103-10	松本博勞町	稲田庄五郎	1	1023	112-06	嶋立町村	北原文左衛門	1
946	103-11	松本博勞町	伊藤文七	1	1024	112-07	嶋立町村	永田角右衛門	1
947	103-12	松本博勞町	藤田儀助	1	1025	113-01	中村	宇治兼右衛門	1
948	103-13	松本博勞町	宮坂万助	1	1026	114-01	村井町	中村又兵衛	1
949	103-14	松本博勞町	松井仁右衛門	1	1027	115-01	福原村	赤羽佐五郎	1
950	103-15	松本博勞町	伊藤太兵衛	1	1028	116-01	小島村	小池綱治	1
951	103-16	松本博勞町	胡桃沢源治郎	1	1029	117-01	伊深村	服部源四郎	1
952	104-01	松本町(立山講中)◎	遠州屋条左衛門	1	1030	117-02	伊深村	大久保佐右衛門	1
953	104-02	松本町(立山講中)	松屋善重	1	1031	118-01	会田町	堀内源左衛門	1
954	104-03	松本町(立山講中)	塩屋久左衛門	1	1032	119-01	北小松村	小口万蔵	1
955	104-04	松本町(立山講中)	大丸屋由右衛門	1	1033	119-02	北小松村	小口佐左衛門	1
956	104-05	松本町(立山講中)	大丸屋長兵衛	1	1034	119-03	北小松村	小口儀左衛門	1
957	104-06	松本町(立山講中)	山屋利七	1	1035	119-04	北小松村	□(1字難読)沢文蔵	1
958	104-07	松本町(立山講中)	飛騨屋弥兵衛	1	1036	119-05	北小松村	丸山市郎右衛門	1
959	104-08	松本町(立山講中)	遠州屋春治郎	1	1037	119-06	北小松村	丸山茂兵衛	1
960	104-09	松本町(立山講中)	柳屋儀兵衛	1	1038	119-07	北小松村	丸山由右衛門	1
961	104-10	松本町(立山講中)	栗屋屋岡右衛門	1	1039	119-08	北小松村	丸山藤五郎	1
962	104-11	松本町(立山講中)	大丸屋太兵衛	1	1040	119-09	北小松村	丸山清右衛門	1
963	104-12	松本町(立山講中)	升屋金左衛門	1	1041	119-10	北小松村	□(1字難読)栄政右衛門	1
964	104-13	松本町(立山講中)	遠州屋治右衛門	1	1042	119-11	北小松村	□(1字難読)栄仁兵衛	1
965	104-14	松本町(立山講中)	白木屋与兵衛	1	1043	120-01	竹田村	清原市郎右衛門	1
966	104-15	松本町(立山講中)◎	遠州屋久蔵	1	1044	120-02	竹田村	清原曾七	1
967	104-16	松本町(立山講中)	松屋庄七	1	1045	121-01	下大池村	村瀬茂左衛門	1
968	104-17	松本町(立山講中)	遠州屋茂助	1	1046	121-02	下大池村	唐沢五郎右衛門	1
969	104-18	松本町(立山講中)	塩屋弥五右衛門	1	1047	122-01	小坂村	長田伝右衛門	1
970	104-19	松本町(立山講中)	般屋儀七	1	1048	122-02	小坂村	永田茂蔵	1
971	104-20	松本町(立山講中)	白木屋新七	1	1049	122-03	小坂村	中川市郎兵衛	1
972	104-21	松本町(立山講中)	飛騨屋庄七	1	1050	123-01	吉見村	上條六右衛門	1
973	105-01	青島町	川船兵左衛門	1	1051	123-02	吉見村	上條定兵衛	1
974	105-02	青島町	吉沢虎吉	1	1052	123-03	吉見村	上條惣治	1
975	106-01	堀米新田村	吉沢逸蔵	1	1053	123-04	吉見村	上條相左衛門	1
976	106-02	堀米新田村	吉沢宗三郎	1	1054	123-05	吉見村	上條吉左衛門	1
977	107-01	堀米町	吉沢長十郎	1	1055	123-06	吉見村	上條与右衛門	1
978	107-02	堀米町	吉沢末次郎	1	1056	123-07	吉見村	上條源三郎	1
979	107-03	堀米町	吉沢常左衛門	1	1057	123-08	吉見村	上條権右衛門	1
980	107-04	堀米町	堀米九内右衛門	1	1058	123-09	吉見村	上條良右衛門	1
981	107-05	堀米村	丸山嘉右衛門	1	1059	123-10	吉見村	上條亀蔵	1
982	107-06	堀米村	等々力武太衛門	1	1060	123-11	吉見村	上條庄右衛門	1
983	107-07	堀米村	胡桃原長三郎	1	1061	123-12	吉見村	堀原右衛門	1
984	107-08	堀米村	吉沢右衛門	1	1062	123-13	吉見村	堀原九郎右衛門	1
985	107-09	堀米村	吉沢新蔵	1	1063	123-14	吉見村	堀原弥右衛門	1
986	107-10	堀米村	吉沢角右衛門	1	1064	123-15	吉見村	堀原弥惣右衛門	1
987	107-11	堀米村	吉沢津右衛門	1	1065	123-16	吉見村	小林近右衛門	1
988	107-12	堀米村	吉沢伝治郎	1	1066	124-01	針尾村	清沢文吉	1
989	107-13	堀米村	吉沢久之助	1	1067	124-02	針尾村	清沢与二右衛門●	1
990	107-14	堀米村	吉沢俊助	1	1068	124-03	針尾村	清沢平作	1
991	107-15	堀米村	吉沢相之助	1	1069	124-04	針尾村	清沢森弥	1
992	107-16	堀米村	吉沢弥五右衛門	1	1070	124-05	針尾村	清沢権蔵	1
993	107-17	堀米村	吉沢十弥	1	1071	124-06	針尾村	於り久	1
994	107-18	堀米村	吉沢宇治郎内	1	1072	124-07	針尾村	清沢与二右衛門★・内方	1
995	107-19	堀米村	吉原宗兵衛	1	1073	124-08	針尾村	清沢源左衛門	1
996	107-20	堀米村	吉原嘉蔵	1	1074	125-01	小野沢村	清沢三左衛門	1
997	107-21	堀米村	吉原倉治郎	1	1075	125-02	小野沢村	清沢三郎兵衛	1
998	107-22	堀米村	吉原流治郎	1	1076	125-03	小野沢村	清沢八左衛門	1
999	107-23	堀米村	吉原勝左衛門	1	1077	125-04	小野沢村	清沢嘉左衛門	1
1000	107-24	堀米村	吉原染右衛門	1	1078	125-05	小野沢村	中村甚之丞	1
1001	108-01	荒井村	清水品右口(1字難読)右衛門	1	1079	125-06	小野沢村	三村村吉	1
1002	108-02	荒井村	小野伊兵衛	1	1080	125-07	小野沢村	三村角兵衛	1
1003	109-01	渚村	浅輪善太右衛門	1	1081	125-08	小野沢村	三村孫右衛門	1
1004	109-02	渚村	高木善兵衛	1	1082	126-01	小野沢新田村	三村権三郎	1
1005	109-03	渚村	浅輪藤右衛門	1	1083	126-02	小野沢新田村	三村俊蔵	1
1006	109-04	渚村	浅輪宇源治	1	1084	126-03	小野沢新田村	清沢小左衛門	1
1007	109-05	渚村	浅輪権弥	1	1085	126-04	小野沢新田村	清沢紫右衛門	1
1008	109-06	渚村	浅輪儀兵衛	1	1086	126-05	小野沢新田村	清沢勘五郎	1
1009	109-07	渚村	神戸武左衛門	1	1087	126-06	小野沢新田村	渡辺元右衛門	1
1010	109-08	渚村	高木千右衛門	1	1088	126-07	小野沢新田村	岡村卯七	1
1011	110-01	小柴町	市沢広右衛門	1	1089	126-08	小野沢新田村	大池茂右衛門	1
1012	110-02	小柴町	丸山亦吉	1	1090	126-09	小野沢新田村	上条福松	1
1013	110-03	小柴町	藤田長四郎	1	1091	127-01	下西洗馬村	高橋又右衛門	1

1092	127-02	下西洗馬村	中村七郎右衛門	1	1170	139-10	岩無山村	岩無山庄藏	1
1093	127-03	下西洗馬村	中村嘉右衛門	1	1171	139-11	岩無山村	高木吉兵衛	1
1094	127-04	下西洗馬村	中村口(1字難読)右衛門	1	1172	139-12	岩無山村	高木弥左衛門	1
1095	127-05	下西洗馬村	中村藤右衛門	1	1173	140-01	種田村	矢口作右衛門	1
1096	127-06	下西洗馬村	中村安右衛門	1	1174	140-02	種田村	矢口太左衛門	1
1097	127-07	下西洗馬村	三村善右衛門	1	1175	140-03	種田村	矢口喜三八	1
1098	127-08	下西洗馬村	三村幾兵衛	1	1176	140-04	種田村	高山七郎右衛門	1
1099	127-09	下西洗馬村	三村源二郎	1	1177	141-01	石口口(2字難読)村	隆ハタ嘉平治	1
1100	127-10	下西洗馬村	三村角左衛門	1	1178	142-01	口(1字難読)杵村	金井源右衛門	1
1101	127-11	下西洗馬村	三村幸左衛門	1	1179	142-02	口(1字難読)杵村	倉田象右衛門	1
1102	127-12	下西洗馬村	三村太郎左衛門	1	1180	142-03	口(1字難読)杵村	金井与介	1
1103	127-13	下西洗馬村	三村周藏	1	1181	143-01	帰属村名不明1	玉屋助十	1
1104	127-14	下西洗馬村	三村九郎二	1	1182	143-02		山屋嘉七	1
1105	127-15	下西洗馬村	小林長之介	1	1183	144-01	帰属村名不明2	奥原作左衛門	1
1106	127-16	下西洗馬村	河内正	1	1184	144-02		奥原定之丞	1
1107	127-17	下西洗馬村	吉城長左衛門	1	1185	144-03		奥原良兵衛	1
1108	127-18	下西洗馬村	波多ノ吉兵衛	1	1186	144-04		奥原近右衛門	1
1109	127-19	下西洗馬村	柳沢善右衛門	1	1187	144-05		奥原半藏	1
1110	127-20	下西洗馬村	廣道	1	1188	144-06		奥原吉右衛門	1
1111	127-21	下西洗馬村	上條栄藏	1	1189	144-07		奥原常右衛門	1
1112	127-22	下西洗馬村	林庄太郎	1	1190	145-01	帰属村名不明3	芳賀次郎	1
1113	127-23	下西洗馬村	北村与左衛門	1	1191	145-02		比奈良右衛門	1
1114	128-01	大日村	中村円右衛門	1	1192	145			1180
1115	128-02	大日村	中村米藏	1					
1116	128-03	大日村	中村茂右衛門	1					
1117	128-04	大日村	中村市部右衛門	1					
1118	128-05	大日村	中村乙松	1					
1119	129-01	小曾部村	成田長左衛門	1					
1120	129-02	小曾部村	北沢源左衛門	1					
1121	129-03	小曾部村	中原七右衛門	1					
1122	129-04	小曾部村	中原良右衛門	1					
1123	129-05	小曾部村	中原長兵衛	1					
1124	129-06	小曾部村	塩原権之丞	1					
1125	129-07	小曾部村	新倉伴右衛門	1					
1126	129-08	小曾部村	寺沢又兵衛	1					
1127	129-09	小曾部村	田中長吉	1					
1128	129-10	小曾部村	成田徳右衛門	1					
1129	129-11	小曾部村	南山藤藏	1					
1130	129-12	小曾部村	南山文兵衛	1					
1131	129-13	小曾部村	萩場喜太郎	1					
1132	130-01	本洗馬村	熊谷長右衛門	1					
1133	130-02	本洗馬村	熊谷勝左衛門	1					
1134	130-03	本洗馬村	熊谷太兵衛	1					
1135	130-04	本洗馬村	田村権右衛門	1					
1136	130-05	本洗馬村	遠藤弥七	1					
1137	130-06	本洗馬村	寺沢幸四郎	1					
1138	130-07	本洗馬村	吉幡十藏	1					
1139	131-01	太田村	塩原源次郎	1					
1140	132-01	長畝村	吉江平左衛門	1					
1141	133-01	細ノ内村	薄井甚五郎	1					
1142	133-02	細ノ内村	松沢武兵衛	1					
1143	133-03	細ノ内村	貝梅久左衛門	1					
1144	133-04	細ノ内村	松沢林藏	1					
1145	133-05	細ノ内村	薄井甚五郎	1					
1146	133-06	細ノ内村	松沢武兵衛	1					
1147	133-07	細ノ内村	貝梅久左衛門	1					
1148	133-08	細ノ内村	松沢林藏	1					
1149	134-01	下西条村	川上伝左衛門	1					
1150	134-02	下西条村	川上与左衛門	1					
1151	134-03	下西条村	川上勝兵衛	1					
1152	135-01	上西条村	北沢源十郎	1					
1153	136-01	折戸村	宮嶋原右衛門	1					
1154	137-01	宮木村	百セ真吉	1					
1155	137-02	宮木村	松田助三郎	1					
1156	137-03	宮木村	清水平重	1					
1157	137-04	宮木村	矢口与右衛門	1					
1158	137-05	宮木村	一志富重	1					
1159	137-06	宮木村	遠藤梅右衛門	1					
1160	138-01	下條村	勝吉	1					
1161	139-01	岩無山村	口(1字難読)木佐右衛門	1					
1162	139-02	岩無山村	酒井儀右衛門	1					
1163	139-03	岩無山村	酒井今右衛門	1					
1164	139-04	岩無山村	茂十	1					
1165	139-05	岩無山村	吉田代吉	1					
1166	139-06	岩無山村	岩無山平助	1					
1167	139-07	岩無山村	岩無山忠左衛門	1					
1168	139-08	岩無山村	岩無山嘉左衛門	1					
1169	139-09	岩無山村	岩無山又八郎	1					

第1表を見ていくと、地蔵尊像に彫り込まれた町村の総数は、村番号45・01～45・47の松川と村番号99・01～104・21の松本の区分がやや曖昧ではあるが、それも含んで145町村である。俗名の寄進者数は1180人である。こうした町村の現在における該当行政区及びそれに対する寄進者数は、村番号1～25までが糸魚川市に帰属し25町村（124人）、村番号26が上越市に帰属し1村（2人）、村番号27が中野市に帰属し1村（1人）、村番号28が上田市に帰属し1町（1人）、村番号29～44までが大町市に帰属し16村（150人）、村番号45～48までが北安曇郡松川村に帰属し4村（108人）、村番号49～58までが北安曇郡池田町に帰属し10村（103人）、村番号59～86までが安曇野市に帰属し28村（248人）、村番号87～119までが松本市に帰属し33町村（294人）、村番号120～122までが東筑摩郡山形村に帰属し3村（7人）、村番号123～127までが東筑摩郡朝日村に帰属し5村（64人）、村番号128～136までが塩尻市に帰属し9村（40人）、村番号137が上伊那郡に帰属し1村（6人）、村番号138が下伊那郡に帰属し1村（1人）、村番号139～145までは不明で7村（31人）となっている。松本市の寄進者数が最も多く、以下順に安曇野市、大町市、糸魚川市、松川村、池田町が多く、いずれも100人を超えている。

寄進者数が15人以上の町村は、次の通りである。水保村（16人）、館之内村（16人）、松川村・松川組（51人）、板取村（27人）、細野村（23人）、正科村（15人）、滝沢村（21人）、渋田見村（24人）、中之郷村（15人）、等々力村（22人）、狐島村（17人）、矢原村（10人）、上押野村（15人）、下堀金村（21人）、北小倉村（16人）、下中萱村（29人）、野沢村（17人）、小室村（24人）、立田村（31人）、下波田村（16人）、中波田村（20人）、松本中町（23人）、松本博労町（16人）、松本町（21人）、堀米町・堀米村（24人）、古見村（16人）、下西洗馬村（23人）。

観音寺の地蔵尊像の寄進に対して、どのような一族が中心的に関わっているのかを知るため、各町村において同姓の寄進者が4人以上存在する事例を、以下のとおり抽出した。村番号4水保村（広川4軒・小川4軒）、村番号6真木村と村番号7栗倉村と村番号8来海沢村（斉藤4軒・猪又12軒）、村番号11和泉村と村番号13大工屋敷村（北村11軒）、村番号18柱道村（利根川4軒）、村番号20高倉村（橋立8軒）、村番号22川詰村（平塚5軒）、村番号31館之内村（伊藤6軒・中嶋5軒）、村番号35曾根原村（降旗5軒）、村番号37柿ノ木村（奥原6軒・古旗4軒）、村番号40仏崎（荒井4軒）、村番号42須沼村（清水4軒）、村番号43西山村（降旗4軒）、村番号45松川村・松川組（平野4軒・一柳5軒・平林6軒）、村番号46板取村（丸山4軒・久保田4軒）、村番号48細野村（高田6軒・奥原4軒）、村番号49正科村（密沢5軒）、村番号52滝沢村（片世7軒）、荒井4軒（矢口6軒）、村番号54渋田見村（山崎10軒）、村番号57中之郷村（滝沢6軒）、村番号64等々力村（等々力10軒・望月4軒）、村番号67狐島村（望月4軒・高橋9軒）、村番号70上押野村（矢花6軒）、村番号71下押野村（矢花6軒）、村番号75下堀村・下堀金村（黒岩6軒）、村番号79飯田村（飯田6軒）、村番号82上中萱村（多田4軒）、村番号83下中萱村（小林4軒）、村番号86野沢村（降旗5軒・務□〔1字難読〕5軒）、村番号87中塔村（二村10軒）、村番号88小室村（樽沼8軒）、村番号91立田村（西牧9軒）、村番号95下波田村（大月10軒）、村番号96中波田村（興5軒・安藤4軒）、村番号104松本町（遠州屋5軒）、村番号107堀米村（吉沢14軒・吉原6軒）、村番号109渚村（浅輪5軒）、村番号119北小松村（丸山5軒）、村番号123古見村（上條11軒・塩原4軒）、村番号124針尾村（清沢8軒）、村番号125小野沢村（清沢4軒）、村番号125小野沢村・村番号126小野沢新田村（三村5軒）、村番号127下西洗馬村（中村5軒・三村8軒）、村番号128大日村（中村5軒）、村番号133堀ノ内村（松沢4軒）、村番号139岩無山村（岩無山5軒）、村番号144帰属村名不明2（奥原7名）。

さて、この地蔵尊像の請負人は、No.935村番号102・01の松本飯田町・栗罐屋佐原市右衛門尉正孝である。この人物については、山内實太郎『松本繁昌記（復刻）』¹¹に次のように記載が見られる。「◎佐原鐵物店 佐原鐵物店は飯田町の西側に在り栗罐屋と称す鐵物類の販売店としては当地に於ける旧家にして其營業向の確實なると取引の手広きは同業中の巨擘と称すべく鐵物一切は能く備はらざるなし誠に手堅き老舗なり同店は兼ねて度量衡

器を手広く販売せり」。

世話人は、No.643～646村番号79-1～79-04飯田村の飯田喜代太郎、飯田国五郎、竹内孫左衛門、飯田茂平治の4人である。この地藏尊像には松本の絞木綿の同業者集団「松本講」が中心となって寄進をしているが、「立山講中」として氏名が刻み込まれている商人は次のとおりである。No.952～972及び村番号104-01～104-21松本町の遠州屋条左衛門、松屋善重、塩屋久左衛門、大丸屋由右衛門、大丸屋長兵衛、山屋利七、飛驒屋弥兵衛、遠州屋春治郎、堺屋儀兵衛、薬罐屋周右衛門、大丸屋太兵衛、升屋金左衛門、遠州屋治右衛門、白木屋与兵衛、遠州屋久蔵、松屋庄七、遠州屋茂助、塩屋弥五右衛門、穀屋儀七、白木屋新七、飛驒屋庄七。

2. 信濃国の人々の芦峯寺への仏像寄進

江戸時代後期、芦峯寺の教蔵坊や宝伝坊は信濃国で勸進布教活動を行っていたが、その感化を受けて立山信仰の信者となった人々が、後に芦峯寺に金銅仏を寄進している。それらの金銅仏は、明治の神仏分離令による廃仏毀釈の影響でそれぞれ観音寺・永平寺・総持寺に移遷された。観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の件については前述のとおりであるが、永平寺の銅造地藏菩薩半跏坐像と総持寺の聖観世音菩薩坐像のそれぞれの台座の蓮弁にもわずかに銘文が刻まれており、前者には「立山芦峯寺願主教蔵坊」・「信州筑摩郡松本施主」・「勅許御鑄物師松本住濱石見大據藤原清綱作」などの銘文が見られ、後者には「立山芦峯寺」・「勅許信濃国施惣官大鑄物師松本住田中傳右衛門藤原吉伸作」などの銘文が見られる。

ところで、長野県北安曇郡松川村細野の平林家に、江戸時代、教蔵坊が平林勘之丞に発給した「金佛建立證印 立山教蔵坊（寛政元年）」【史料A】と平林徳左衛門（第1表368）に発給した「宮鑄地藏尊支證 立山教蔵坊（文政8年）」【史料B】の2通の文書が現存しているが、それにより、教蔵坊を願主として、寛政元年（1789）に地藏菩薩・観音菩薩の2体の金銅仏が造られ、さらに、文政8年（1825）にも地藏菩薩の金銅仏が1体造られたことがわかる。前掲の3体の刻字と照合すると、文政8年（1825）に造られた地藏菩薩像は観音寺に現存する尊体と推測され、一方、寛政元年（1789）に造られた地藏菩薩像と観音菩薩造はそれぞれ永平寺と総持寺に現存する尊体であると推測される。

【史料A】

「金佛建立證印 立山教蔵坊 観音地藏二尊建立證印」（北安曇郡松川村・平林家所蔵、寛政元年〔1789〕）

【封筒】

金佛建立證印 立山教蔵坊

【本紙】

観音地藏二尊建立證印

夫当山御姥尊ト者諸仏瑞集之梵岬一切衆生死之母タリ然ルニ始從レ天降り給時右ノ御手ニハ五穀ヲ納左ノ御手ニハ麻ノ種ヲ執持シ一切衆生ニ与之給依生長ス爰ニ御脇立建立地藏大菩薩観世音菩薩天福皆来地福円満本有ノ薩埵也今世ニハ寿命長遠子孫繁昌守護給来世ニハ五逆重罪ヲ滅シ則心成仏無疑者也衣テ於御宝前ニ日日献六種之妙供ヲ施建之戒名俗名ヲ記置永代廻向令祈勤者也仍テ寄進状如件

寛政元己酉歳

立山願主
教蔵坊

享保十八丑天

銀叟普鉄居士
二月廿五日
享保七寅天
宝室貞三大姉
正月十一日
先祖代々菩提 平林勘之丞殿

【史料B】

「營鑄地藏尊 支證 立山教藏坊 金像地藏尊施財稟」（北安曇郡松川村・平林家所蔵、
文政8年〔1825〕）

【封筒】

營鑄地藏尊
支證 立山
教藏坊

【本紙】

金像地藏尊施財稟

夫当山諸仏瑞集之梵岷衆生濟度之靈地也爰奉新營鑄地藏菩薩施財所志聖靈安置此密場永劫
毎日備六種之妙供修三密之觀行亦孟蘭盆会都婆造立之追福廻向等至于龍華之曉衆退轉然以
大悲地藏菩薩願力与秘密神變修力故所志亡靈速極樂往生当来慈尊出世説時必可為菩薩聖衆
無疑矣

郭室智聖大姉
郭然無聖居士
荷林玉葉童女
如參智劫童女
文政八乙酉年

立山
教藏坊

信州細田村
平林徳左衛門殿

【史料A】と同じ内容の文書が彫られた版木が富山県〔立山博物館〕に現存・所蔵
されている【史料C】。

【史料C】

版木「観音地藏二尊建立の証印 立山願主教藏坊 寛政元年」（富山県〔立山博物館〕
所蔵、寛政元年〔1789〕、寸法：縦24.0cm×横21.1cm×厚さ1.9cm）

観音地藏二尊建立証印

夫当山御姥尊ト者諸仏瑞集之梵岷一切衆生死之母タリ然ルニ始從レ天降り給時右ノ御手ニ
ハ五穀ヲ納左ノ御手ニハ麻ノ種ヲ執持シ一切衆生ニ与之給依生長ス爰ニ御脇立建立地藏大
菩薩觀世音菩薩天福皆来地福円満本有ノ薩埵也今世ニハ寿命長遠子孫繁昌守護給来世ニハ
五逆重罪ヲ滅シ則心成仏無疑者也衣テ於御宝前ニ日日献六種之妙供ヲ施建之戒名俗名ヲ記
置永代廻向令祈勤者也仍テ寄進状如件

寛政元己酉歳

立山願主
教藏坊

また、史料Bと同じ内容の古文書が長野県立歴史博物館に2点所蔵されており、その
うちの1通【史料D】は発給者が「立山教藏密坊法印照界」で宛所が「信州松本本町 遠

州屋条左衛門」(第1表952)となっている。もう片方の1通【史料E】で発給者が「立山教蔵密坊法印照界」で宛所が「信州松本本町 遠州屋久蔵」(第1表966)となっている。さらに、大町市平源汲の荒井家にも同じ内容の古文書が所蔵されており【史料F】、発給者は「立山教蔵坊」で宛所が「信州板取村 新野太兵衛殿」(第1表350)となっている。

【史料D】

「營鑄地藏尊 支證 立山教蔵坊 金像地藏尊施財稟」(長野県立歴史博物館所蔵、文政8年〔1825〕)

【封筒】

營鑄地藏尊

支證 立山

教蔵坊

(封筒の裏側に「遠丈」と記されている)

【本紙】(本文中に円形の朱印)

金像地藏尊施財稟

夫当山諸仏瑞集之梵岷衆生濟度之靈地也爰奉新營鑄地藏菩薩施財所志聖靈安置此密場永劫
毎日備六種之妙供修三密之觀行亦盂蘭盆会都婆造立之追福廻向等至于龍華之曉衆退轉然以
大悲地藏菩薩願力与秘密神變修力故所志亡靈速極樂往生当来慈尊出世説時必可為菩薩聖衆
無疑矣

立山教蔵密坊

法印照界(角形の朱印)

文政八乙酉年

再猿田興居士

法泉禪童子

信州松本本町

遠州屋条左衛門殿

【史料E】

「營鑄地藏尊 支證 立山教蔵坊 金像地藏尊施財稟」(長野県立歴史博物館所蔵、文政8年〔1825〕)

【封筒】

營鑄地藏尊

支證 立山

教蔵坊

(封筒の裏側に「遠久」と記されている)

【本紙】(本文中に円形の朱印)

金像地藏尊施財稟

夫当山諸仏瑞集之梵岷衆生濟度之靈地也爰奉新營鑄地藏菩薩施財所志聖靈安置此密場永劫
毎日備六種之妙供修三密之觀行亦盂蘭盆会都婆造立之追福廻向等至于龍華之曉衆退轉然以
大悲地藏菩薩願力与秘密神變修力故所志亡靈速極樂往生当来慈尊出世説時必可為菩薩聖衆
無疑矣

立山教蔵密坊

法印照界(角形の朱印)

文政八乙酉年

本嘗覚岸教道清居士

聖嶽淨賢大禪定門

信州細田村

【史料F】

「營鑄地藏尊 支證 立山教藏坊 金像地藏尊施財稟」（大町市・荒井家所蔵、大町市立大町山岳博物館寄託資料、文政8年〔1825〕）

【封筒】

營鑄地藏尊

支證 立山

教藏坊

（封筒の裏側に「太兵衛」と記されている）

【本紙】（本文中に円形の朱印）

金像地藏尊施財稟

夫当山諸仏瑞集之梵岷衆生濟度之靈地也爰奉新營鑄地藏菩薩施財所志聖靈安置此密場永劫
毎日備六種之妙供修三密之觀行亦盂蘭盆会都婆造立之追福廻向等至于龍華之曉矣退然以
大悲地藏菩薩願力与秘密神變修力故所志亡靈速極樂往生当来慈尊出世説時必可為菩薩聖衆
無疑矣

祥山良雲居 祥室貞雲大姉

意山宗作居士 風安妙松大姉

知今童女 花顔初見大姉

排雲 魯道居士 円室智鏡大姉

新野院脱兒浄心居士 慈達院虚岩宗真居士

文政八乙酉年

立山

教藏坊（角形の朱印）

信州板取村

新野太兵衛殿

ところで、信濃国の人々の寛政元年（1789）と文政8年（1825）の2度の芦峯寺教藏坊への金銅仏の寄進の他に、それ以前の天明7年（1787）にも芦峯寺宝伝坊を願主として、信濃国の人々が芦峯寺姥堂に安置された姥尊像の脇立として、観世音菩薩像を芦峯寺に寄進したことを示す古文書【史料G】が前述の大町市の荒井家に現存している。この古文書は立山宝伝坊から下行村新井権右衛門（第1表350）に宛てられたものである。

【史料G】

「證印 下行村新井権右衛門殿 立山宝伝坊」（大町市・荒井家所蔵、大町市立大町山岳博物館寄託資料、天明7年〔1787〕、寸法：縦28.2cm×横39.0cm）

【封筒】

證印 下行村 立山宝伝坊

新井権右衛門殿

【本紙】（本文中に角形の朱印と宝珠形の朱印）

證印曰

夫当山ト者諸仏瑞集之梵屈衆生濟度之靈地麓ニハ御姥尊道場ハ諸尊之浄土極樂莊嚴之大功德也然所ニ御脇立建立之施主現世ニ寿命長遠子孫繁昌守護給来世ニハ五逆重罪ヲ滅則心成仏無疑者也依テ如件

立山願主

宝伝坊

天明七未歳十月日

御脇立観世音菩薩

寂照潭月信女
惠山了智居士
明心自白大姉
実源妙照信女
延室貞寿信女
実山良法信士
恭應勤春禪定尼
新井権右衛門殿

また、【史料G】と同じ内容の文書が彫られた版木【史料H】が富山県〔立山博物館〕に現存・所蔵されている。

【史料H】

版木「證印曰（芦峯寺姥堂姥尊像の脇立観世音菩薩像建立の証印）」（版木・天明7年〔1787〕）（富山県〔立山博物館〕所蔵、寸法：縦22.0×横20.7×厚さ1.5cm）

證印曰

夫当山ト者諸仏瑞集之梵屈衆生濟度之靈地麓ニハ御姥尊道場ハ諸尊之浄土極樂莊嚴之大功德也然所ニ御脇立建立之施主現世ニ寿命長遠子孫繁昌守護給來世ニハ五逆重罪ヲ滅則心成仏無疑者也依テ如件

立山願主
宝伝坊

天明七未歳十月日
御脇立観世音菩薩

さて、こうした信濃国の人々の芦峯寺教蔵坊や宝伝坊への仏像寄進に関する證文以外に、安政4年（1857）8月に教蔵坊から筑摩郡柿沢村の市之瀬林左衛門に宛てられた月牌供養の證文【史料I】や、同じく同年（1857）同月に同坊から同氏に宛てられた護摩供養の功德を説く文章【史料J】が残っており、現在筆者が所蔵している。なお、これとまったく同じ内容の護摩供養の功德を説く文章で、翌安政5年（1858）11月に教蔵坊から諏訪郡文出村の山田新右衛門に宛てられたものが、その子孫の諏訪市豊田文出の山田家に残っている【史料K】。さらにその元版木【史料L】が富山県〔立山博物館〕に現存している。

【史料I】

「月牌之證文 信州筑摩郡柿沢邑 市之瀬林左衛門殿 立山教蔵坊」（石川県金沢市・筆者所蔵、安政4年〔1857〕）

【封筒】

月牌之證文 立山教蔵坊

【本紙】

月牌之證文

阿吽發声信士 位（位牌の図の中の書き込み）

夫当山者諸仏瑞集之梵崛衆生濟度之靈地也爰建立之月牌者至于龍華之暁毎月備六種之妙供修三蜜觀行令廻向每歳於盂蘭盆会之場卒塔婆造立供養追福等永無退轉慈興大上人之記言若送置吾山處之亡魂者以我日日三蜜加持力故先送安養實刹到来於我山尊慈說法時必可為聽衆菩薩戒ニ貴哉幽魂得脱無疑者也

立山
教蔵坊（角形の朱印）

安政四丁巳年八月日

信州筑摩郡柿沢邑
市之瀬林左衛門殿

【史料J】

「教蔵坊護摩修行功德書 立山教蔵坊」（石川県金沢市・筆者所蔵、安政4年〔1857〕）

（楕円形の朱印）（本文中真ん中に円形の朱印）

夫純密護摩之妙行者於諸經中随類得益妙用殊勝也誠印々咒々無盡加持門妙德者能成淨菩提心茲越中邦立山者転迷開悟之靈山而諸仏集会之道場也於此道場恭構四曼輪壇修無尋六大秘密郡類俱入阿字門如来秘蔵證道矣蓋此勝妙功德之護摩入檀入内除諸疔難延命外弘惡魔障碍增運遠遁山川海陸諸危難怨敵呪詛水剱難火盜毒疾邪神方惟諸凶難毒虫疑惑之難近家族繁榮令得無導勝福家名永伝子孫悉悟入密乘登妙覺究竟位如是上妙之功德如明鏡

立山

教蔵坊（角形の朱印）

安政四丁巳年八月日

信州筑摩郡柿沢邑
市之瀬林左衛門殿

【史料K】

「教蔵坊護摩修行功德書 立山教蔵坊」（長野県諏訪市豊田文出・山田家所蔵、安政5年〔1858〕）

（楕円形の朱印）（本文中真ん中に角形の朱印）

夫純密護摩之妙行者於諸經中随類得益妙用殊勝也誠印々咒々無盡加持門妙德者能成淨菩提心茲越中邦立山者転迷開悟之靈山而諸仏集会之道場也於此道場恭構四曼輪壇修無尋六大秘密郡類俱入阿字門如来秘蔵證道矣蓋此勝妙功德之護摩入檀入内除諸疔難延命外弘惡魔障碍增運遠遁山川海陸諸危難怨敵呪詛水剱難火盜毒疾邪神方惟諸凶難毒虫疑惑之難近家族繁榮令得無導勝福家名永伝子孫悉悟入密乘登妙覺究竟位如是上妙之功德如明鏡

立山

教蔵坊（角形の朱印）

安政五年歳十一月日

信州諏訪郡文出邑
山田新右衛門殿

【史料L】

「教蔵坊護摩修行功德書 立山教蔵坊」（富山県〔立山博物館〕所蔵、寸法：縦21.2cm×横24.0cm×厚さ1.5cm）

夫純密護摩之妙行者於諸經中随類得益妙用殊勝也誠印々咒々無盡加持門妙德者能成淨菩提心茲越中邦立山者転迷開悟之靈山而諸仏集会之道場也於此道場恭構四曼輪壇修無尋六大秘密郡類俱入阿字門如来秘蔵證道矣蓋此勝妙功德之護摩入檀入内除諸疔難延命外弘惡魔障碍增運遠遁山川海陸諸危難怨敵呪詛水剱難火盜毒疾邪神方惟諸凶難毒虫疑惑之難近家族繁榮令得無導勝福家名永伝子孫悉悟入密乘登妙覺究竟位如是上妙之功德如明鏡

立山

教蔵坊

3. 松本の立山講一行 1,000 人の立山詣り

野麦峠は、岐阜県高山市と長野県松本市の県境に位置し、飛騨国と信濃国を結ぶ鎌倉街道・江戸街道と呼ばれる街道の峠のことである。この野麦峠については、近年、長野県松本市・奈川村から観た野麦街道の歴史を中心に Web サイトにデジタルでまとめた「奈川野麦峠ミュージアム」が設立されている¹²。

さて、このサイトには、勝山裕康氏による野麦峠の歴史年表が掲載されており、その文政 8 年 (1825) の条に「松本立山講一行 1,000 人野麦峠を越え立山詣り」の一文が見られる。そして、その典拠は『奈川村誌 歴史編』所収「年表」の文政 8 年 (1825) の条の記載であり¹³、まったくの同文であった。なお、『奈川村誌 歴史編』所収の「年表」は、安曇野市三郷の郷土史家・降旗正幸氏 (故人) が、奈川村に起きた事柄とそれに関連する国・藩・領地・周辺村などの事項も加えて作成したものであり、主な参考資料として、特に村内のことは『吉蘇志略』『木曾地名考』『大宝院書留』『入四ヶ村書付』『奈川学校沿革誌』『奈川公民館報縮刷版』『奈川村役場文書』『南安雲郡誌』『西筑摩郡誌』などを用いて執筆しているが、残念ながら、前掲の一文の典拠史料は確認できなかった。

この内容が何らかの古文書史料によるものか、あるいは村の伝承によるものかは定かではないが、時期的な面からすれば、前述の芦峠寺教蔵坊が文政 8 年 (1825) 7 月に信濃国の立山信仰の信者たちから寄進された小矢部市観音寺の地蔵尊像の一件と、何らかの関係があると考えられる。地蔵尊像の寄進者たちがその完成後に芦峠寺に安置された同像を拝観するために出向いた可能性もあろう。

そもそも地蔵尊像を鋳造した鋳物師は信濃国上田の小嶋大治郎藤原弘孝であるが、しかし、それが鋳物師の居住地の上田で鋳造されたものか、それとも請負人の松本で鋳造されたものか、あるいは芦峠寺またはその付近で鋳造によって造られたものかといったことについては諸説がある。

そのなかで、これまでのところ斎藤善夫氏の出鋳説が有力視されている¹⁴。ただし、この地蔵尊像は総高 2m を超える大型の銅像であるが、台座や本体、持物など大小取り混ぜて 20 パーツほどに分けて鋳造され、それらが組み立てられてできている。したがって逆に分解することもでき、どこで鋳造されても芦峠寺まで運搬することは可能であった。実際に明治初期には前述のとおり、芦峠寺から長楽寺、さらに観音寺へと移遷されている。斎藤氏は、地蔵尊像が松本で鋳造されたとすれば、立山までの運搬ルートとして、①松本→高山→立山、②松本→糸魚川→海運説、③松本→犀川・信濃川舟運→新潟→海運説、④針ノ木峠、佐良峠を越えた、などが考えられるとしている¹⁵。このなかで①のルートは、信濃国松本から野麦峠を越えて飛騨国高山へ通じる野麦街道であり、前述の文政 8 年 (1825) の「松本立山講一行 1,000 人野麦峠を越え立山詣り」の記載と合致する。そうすると、斎藤氏の出鋳説は依然有力ではあるが、その一方で、松本で鋳造され野麦街道を経て立山山麓の芦峠寺まで運搬された可能性もまだ捨て切らない方がよいであろう。

ところで、文政 8 年 (1825) に、もし本当に松本の立山講一行 1,000 人が野麦峠を越えて、立山に参詣したとすれば、あるいは地蔵尊像を運搬したとすれば、当事者である立山講一行の人々にとって、また旅中に彼らに関わった各地の人々にとっても、これは相当の一大事である。旅中の休憩や食事、宿泊はどうなるのか、1,000 人もの人々が富山藩西猪谷関所を通過する際にはどうなるのか、様々な疑問がわいて出てくる。そもそも、1 回の旅で 1,000 人が移動したのか、あるいは何回にも分けての立山参詣の延べ人数が 1,000 人ということもありえる。ちなみに、高瀬保氏の「西猪谷口留番所の通行者」¹⁶には、文化 14 年 (1817) から元治元年 (1864) にかけて、西猪谷番所を通り越中側に入国した人を列挙しているが、それによると、文政 8 年 (1825) は、同年の関所日記や留帳、過書などの関係史料の現存状況にも左右されるが、残念ながら 1 件も挙げられていない。

4. 松本の立山講

4—1. 新川木綿

越中国新川地方の新川木綿に関する文献には、古いものでは明治17年(1884)刊行の『富山県勸業第一回年報 明治十六年 富山県勸業課』¹⁷や明治42年(1909)刊行の『下新川郡史稿(上巻)』¹⁸、大正2年(1913)刊行の富山県滑川役場『滑川町誌』¹⁹、昭和8年(1933)刊行の黒田源太郎『爐邊夜話』²⁰などがある。その後しばらく時を経て、これらの文献や新川地方の地方文書も活用して、昭和41年(1966)に奥田淳爾氏が「新川木綿の盛衰」(『富山史壇 第33号』所収)²¹と題する本格的な論文を発表している。

その後も、昭和42年(1967)刊行の『入善町誌』²²や昭和43年(1968)刊行の『魚津市史 上巻』²³と昭和47年(1972)刊行の『魚津市史 下巻』²⁴、昭和48年(1973)刊行の『富山県史 民俗編』²⁵などで、奥田氏の論文など前述の文献を参考にして新川木綿の項目が執筆された。

さらに、昭和54年(1979)に高瀬保「新川木綿・魚肥の普及と船問屋株崩壊」(『加賀藩海運史の研究』所収)²⁶、昭和58年(1983)に「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」(『富山県史 通史編IV近世下』所収)²⁷が刊行され、平成2年(1990)には谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」(『富山大学日本海経済研究所研究年報 第16号』所収)²⁸と、入善町史編さん室編『入善町史 通史編』²⁹などが刊行されている。

これらの文献のなかで、特に『下新川郡史稿(上巻)』や奥田淳爾「新川木綿の盛衰」、『富山県史 通史編IV近世下』、谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」の4つの文献を参考にして、以下、越中国新川地方の木綿布の生産・流通状況を見ていきたい。

越中国新川郡では加賀藩の安永期(1772~1780)・天明期(1781~1788)の産業政策により、安永期頃から滑川・魚津・上市・三日市・入善・泊町などで白木綿の生産が行われた。天明期には取扱量が多くなったため魚津に綿肝煎が置かれ、享和2年(1802)になると滑川の綿打稼は11軒に増加した³⁰。さらに文政期から天保期(1830~1843)には、新川木綿が加賀藩の主要産物になっている³¹。

その販路について天明期の状況を見ると、天明6年(1786)の「魚津宿鑑」には魚津町木綿の出来高が4,545疋であるとし、それを高岡・金沢・氷見などへ売出し、年により増減があると記している³²。文化8年(1811)には800貫目から900貫目の生産額となり、うち400貫目は出津品であった³³。天保元年(1830年)には3,000貫目が魚津から信州松本商人へ、600貫目が江戸会所へと搬出された³⁴。文政7年(1824)、高岡が加賀藩から綿取引の独占権を与えられ、加賀・能登・越中における唯一の綿場が設置された。高岡の綿問屋は関西地方から原綿を買い取り、北前船で高岡に運んだ。高岡で綿打ちをし、新川地方や能登地方、砺波地方の農家へ綿を卸した。そしてそこで綿が紡がれて綿糸となり機織されて白木綿に仕立てられた。そのなかでも特に有名だったのが「新川木綿」であった³⁵。

文政13年(1830)8月の加賀藩産物方主付一丸甚六の書状³⁶によると、当時信濃国松本の商人に100万反が販売されていたことがわかる。このように天保元年(1830年)までには、松本と江戸が新川木綿の主要な販売先になっていた。

松本に新川木綿が販売されるようになった契機は、次のとおりである。寛政年間(1789~1800)に松本の麻商人の某が三日市町の円右衛門方に宿泊し、これまで出回っている綿織物のなかで、新川の白木綿は自分たちの地方の需要に適すると思い、若干を地元松本に持ち帰った。この時の円右衛門の買い入れが、後に信濃国に新川木綿の販路を開いた元祖となったというものである³⁷。さらに文化期の頃、三日市村の島屋清吉が松本に赴き、同地の商人と交流し、薬罐屋の某と契約して木綿を松本に輸出して以来、信濃国や越後国の商人等が下新川郡の諸方を訪れ、数多の木綿を買い取っていくようになった³⁸。そして、前述の一丸甚六の文政13年(1830)8月の書状³⁹によると、文政期には30人程の松本商人

が新川郡へ木綿の買付けに訪れ、100万反が販売されていたという。

さて、奥田淳爾氏の「新川木綿の盛衰」によると、三日市町の木綿問屋米屋吉十郎（本多家）と松本との取引先を示す明治2年（1869）の史料には、松本の陳屋藤兵衛以下48名の名前が記載され、さらに同史料の欠損状況からすると当初は60以上の取引先があったものと推測されるという。この他、同史料からは、松本との取引のルートが魚川・小谷峠・大町・松本のコースをたどっていたこともわかるという⁴⁰。

4—2. 芦峯寺の布橋灌頂会と木綿

江戸時代、越中立山は山中に地獄や浄土がある“あの世”と考えられていた。男性はあの世の立山に入山することで擬似的に死者となり、地獄の責め苦に見立てられた厳しい禅定登山を行うことで、自分の罪を滅ぼして下山する。こうして新たな人格・生命に再生し、現世の安穏や死後の浄土往生が約束された。

しかし、当時の立山は女人禁制の霊場であった。そこで、江戸時代、毎年秋彼岸の中日に山麓の芦峯寺（現、富山県中新川郡立山町）では、男性の禅定登山と同義の儀礼として、村の閻魔堂・布橋・姥堂の宗教施設を舞台に、女性の浄土往生を願って「布橋大灌頂（布橋灌頂会）」と称する法会が開催された。

地元宿坊衆徒の主催により、全国から参集した女性参詣者（実際は男性参詣者も参加していた）は閻魔堂で懺悔の儀式を受け、次にこの世とあの世の境界の布橋を渡り、死後の世界に赴く。そこには立山山中に見立てられた姥堂（芦峯寺の人々の山の神を根源とする姥尊が祀られている）があり、堂内で天台系の儀式を受けた。こうして、すべての儀式に参加した女性は、受戒し血脈を授かり、男性のように死後の浄土往生が約束されたと概念づけられていた。この布橋大灌頂は幕末期に至ると、同じく芦峯寺衆徒が執行した大施餓鬼・血盆納経式とともに、立山信仰ならではの女人救済儀礼として、庶民層にだけでなく、江戸城の関係者や諸大名家など近世身分制社会の最上級の人々にも認識されていた。第13代将軍徳川家定の夫人の天璋院篤姫や第14代将軍徳川家茂の夫人の皇女和宮をはじめ、多くの大奥女中、あるいは諸大名家の藩主夫人や奥女中らも布橋大灌頂や血盆納経式に関心を示し、芦峯寺宝泉坊に寄進を行っている。

さて、布橋灌頂会の儀式では、閻魔堂から布橋を経て姥堂まで白布が敷き渡された。その際に用いられる白布の長さは、以下の①から⑮の通りである。

①延享4年（1749）9月に芦峯寺衆徒・社人中から加賀藩寺社奉行所へ宛てられた書付では136反⁴¹、②安永8年（1779）芦峯寺日光坊「芦峯姥堂大縁起」では136反⁴²、③寛政7年（1795）芦峯寺大仙坊「立山御姥尊布橋施主帳 立山御姥尊別当大仙坊」では136反⁴³、④寛政7年（1795）芦峯寺大仙坊「立山御姥尊布橋布施主帳 立山御姥尊別当大仙坊」では136反⁴⁴、⑤文化2年（1805）芦峯寺善道坊「立山御姥尊莊嚴施主帳」では360反⁴⁵、⑥文化11年（1814）芦峯寺宝泉坊衆徒照円「勸進帳（布橋大灌頂勸進記）」では360反⁴⁶、⑦文化14年（1817）芦峯寺権教坊「芦峯中宮寺姥堂大縁起」では136反⁴⁷、⑧文政3年（1820）芦峯寺宝伝坊「御姥尊縁起」では136反⁴⁸、⑨文政3年（1820）芦峯寺泉蔵坊「立山御姥尊別当奉加帳 芦峯泉蔵坊」では360反⁴⁹、⑩文政6年（1823）芦峯寺大仙坊「立山御姥尊別当奉加帳 芦峯大仙坊」では360反⁵⁰、⑪文政10年（1827）芦峯寺相善坊「北国立山御姥堂別当奉加帳」では360反⁵¹、⑫文政6年（1823）から文政12年（1829）の間に作成された「立山本地阿弥陀如来略記」では136反⁵²、⑬天保2年（1831）芦峯寺善道坊「立山御姥尊布橋大灌頂勸進記」では360反⁵³、⑭天保13年（1842）芦峯寺一山「諸堂勤方等年中行事外数件」では360反⁵⁴、⑮元治元年（1864）芦峯寺宝泉坊衆徒泰音「布橋大灌頂勸進記」では1,360反⁵⁵となっている。

以上の史料により布橋灌頂会に用いられる白布の長さは、寛政期（1789～1800）までは136反であり、それが文化期（1804～1817）から文政期（1818～1829）にかけては136反から2.5倍以上の360反に増加していることがわかる。

一方、越中国新川郡では加賀藩の安永期（1772～1780）・天明期（1781～1788）の産業政策により、安永期頃から滑川・魚津・上市・三日市・入善・泊町などで白木綿の生産が行われた。天明年間には取扱量が多くなったため、魚津に綿肝煎が置かれ、享和2年（1802）になると滑川の綿打稼は11軒に増加した⁵⁶。さらに、文政期から天保期（1830～1843）には新川木綿が加賀藩の主要産物になっている⁵⁷。こうした状況と、布橋灌頂会に使用する白布の長さの文化期から文政期にかけての極端な増加現象は、まさに連動したものであったと考えられる。

ところで、芦峠寺の伝承では、布橋灌頂会が終わったあと、使用された白布で経帷衣を制作したというが、各宿坊家は布橋灌頂会のために少なくとも1反ずつは提供しているから、それぞれ少なくとも1反ずつのお下がりがあったはずで、それを用いて経帷衣を制作したのであろう。受注枚数が多くて足りない場合は、地元の新川木綿を購入して制作したと考えられる。嘉永2年（1849）善道坊竜泰著『立山秘伝御帷子等整法草稿』⁵⁸に記載された経帷衣の制作図面に、「御帷子仕立方寸尺」として「ヲモミ長三尺。是モ昔当時ハ布高値ニ付、大概二尺八寸ヨリ九寸也」との文言が見られ、経帷衣の制作にあたっては、外部から布が購入されていたことが推測される。おそらく、これは新川木綿であろう。このように、遅くとも文政期から天保期の間には新川木綿の生産・流通が確立されており、芦峠寺衆徒は、布橋灌頂会に必要な白布を、すべて地元の新川木綿を購入することで調達できたと考えられる。

4—3. 松本の立山講

第2章で教蔵坊が寛政元年（1789）と文政8年（1825）の2度、信濃国の人々から金銅像の寄進を受けたことを述べたが、その際、松川村細野の平林家は2度とも寄進をしている。したがってこの平林家は寛政元年（1789）には既に教蔵坊と師檀関係を結んでいたと考えられ、そうすると教蔵坊の信濃国の檀那場も領域や規模などこそ不明だが、その頃既にある程度形成されていたと考えてよいだろう。

さて、第1章で述べたとおり、史的には文政8年（1825）の小矢部市観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文によって、教蔵坊の衆徒照界と松本の木綿問屋の同業組合「立山講」との接点を確認できるが、もっともそれ以前から教蔵坊は松本の木綿問屋と何らかの繋がりを持っていたのではないかと推測される。

寛政年間（1789～1800）に信濃国松本の麻商人の某が三日市町の円右衛門方に宿泊し、新川の白木綿を若干地元松本に持ち帰ったことが、後の文化年間における新川木綿の松本方面への販路開拓に繋がるわけだが、その際、松本の木綿問屋の同業組合名が「立山講」と名づけられているくらいであるから、おそらく教蔵坊が新川木綿の問屋と松本の木綿問屋を繋ぐ何らかの役割を果たしていたのではないかとと思われる。

松本の立山講については、次の慶応2年（1866）の松本産物会所による鑑札・運上改に際して触れ出された文書の一部⁵⁹に記載が見られる。

町方

一立山講木綿

荷主大町継送り切手産物所江差出候上改請荷主江付入、荷主より箇数取調産物方江差出可申事、其外都而産物方取扱之事。但 五月・九月・十二月限り箇数取調積、金産物所ニ而取立之事。

一繰綿小立

立山講行事より取調産物方江差出積金産物所ニ取立之事

この史料により、松本の町方に「立山講木綿」と呼ばれる木綿関係商人の仲間が存在していたことや、そのメンバーが繰綿流通にも関与していたことがわかる⁶⁰。また、この「立山講木綿」の取り扱う木綿が、「荷主大町継送り」とあるように、糸魚川から大町を経由

して持ち込まれる「越中山」の木綿、すなわち新川木綿であるとみられる。立山講は19世紀初頭には成立していた模様で、文政2年（1819）年には役所へ木綿300反の冥加献上を願い出た記録があり⁶¹、加入商人数は文政期78人、安政期80余人といわれる⁶²。

前述の通り、一丸甚六の文政13年（1830）8月の書状⁶³には、「越中新川御郡へ近年信州松本ノ者共三十人斗、木綿買入ニ毎度罷越申故、当時百万端斗も出来仕候」との記載が見られ、文政期に30人程の松本商人が、新川郡へ木綿の買付けに来たとされ、また、奥田淳爾氏の「新川木綿の盛衰」によると、三日市町の木綿問屋米屋吉十郎（本多家）と松本との取引先を示す明治2年（1869）の史料には、松本の陳屋藤兵衛以下48名の名前が記載され、さらに同史料の欠損状況からすると当初は60以上の取引先があったものと推測されるといふ⁶⁴。

この他、松本の立山講に関して記載されている長野県側の文献を調べていくと、『松本市史 上巻』⁶⁵に次の記載が見られる。

「絞木綿 松本は水質良好なるを以て、越中方面より地木綿を仕入れて之を漂白し、更に絞木綿・手拭等として諸方に販売せり。同業者七十八人あり、其の団体を立山講と云う、一致団結して仕入方の調節を行ひ、以て原料の騰貴を防ぎ、又商品には産物会所の検印を受くることとし、短尺狭巾等の不正品を戒めて信用を高め、斯くて営業益々振ひ盛んに諸国へ輸出したり。」

また、久根下三枝子「犀川通船と城下町の流通」⁶⁶に次のように記されている。

「天保3年（1832）5月25日、この日、数隻の小舟が女島羽川にかかる一ツ橋のたもとまで引き上げられて、奈良井川にかかる新橋から水内郡新町（信州新町）までの犀川通船の開通を盛大に祝った。大手橋前では、問屋や仲買人、立山講（絞木綿の同業者の集団）や吾妻講（刻煙草業者の集団）の人たちが、酒、米、干鰯などの、開通を祝う目出度い品々を兩岸にうず高く積み上げた。縄手や裏小路ではこの情景を一目見ようと集まった見物人で、黒山の人だかりだったという。」

この他、「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会事務局編の『城下町探訪39』には、「紙漉川と地場産業の展開」⁶⁷と題する一文があり、そのなかに次の立山講に関する記載が見られる。

「越中方面から木綿を仕入れて、漂白したのち絞り木綿に染めて反物や手ぬぐい地にして売ることが文政期ころから盛んにおこなわれるようになりました。埋橋あたりで木綿の晒しが盛んにおこなわれたといえます（『よみがえる城下町・松本』）。絞り木綿や手ぬぐい地の販路は京都・名古屋方面でした。この取引商人は「立山講」という講をつくりましたが、文政年間には構成員が78人いました。」

おわりに

以上本稿では、芦峯寺教蔵坊が文政8年（1825）に信濃国の人々から寄進を受けた銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文を分析史料とし、俗名で刻まれた寄進者名とその住所をすべて整理して一覧表を作成した。俗名の寄進者数は1,180人で、住所に該当する町村数は145件であった。そして、そこから教蔵坊の檀那場（布教圏）をあぶり出すと、現在の行政区で言えば、糸魚川市（25町村・124人）、上越市（1村・2人）、中野市（1村・1人）、上田市（1町・1人）、大町市（16村・150人）、北安曇郡松川村（4村・108人）、同郡池田町（10村・103人）、安曇野市（28村・248人）、松本市（33町村・294人）、東筑摩郡山形村（3村・7人）、同郡朝日村（5村・64人）、塩尻市（9村・40人）、上伊那郡（1村・6人）、下伊那郡（1村・1人）の広域であった。なお、この他に村名及び所在地が確認できない事例は7村・31人である。

次に、長野県に現存する教蔵坊が発給した寄進者に対する領収証文などの古文書史料とも併せて、教蔵坊と直接的に関係を持ったことが確認できる人々を幾例か提示した。

一方、教蔵坊が寄進を受けた銅造地藏菩薩半跏坐像の製作にあたっては、先述の銘文か

ら、同坊の衆徒照界と松本の絞木綿問屋の同業組合「立山講」との関係が背景にあるとみられ、さらにこの松本の立山講は、越中国の新川木綿の生産・流通状況にも深く関わっていた。こうした当時の新川木綿を取り巻く状況についても、信濃国の人々の教蔵坊への銅造地藏菩薩半跏坐像の一件と併せて、両者の関係性についても、そこに師檀関係の存在を浮き彫りにした。

註

¹ 拙稿「信濃国の立山信仰—芦峯寺衆徒が江戸時代後期以降に信濃国で形成していた檀那場について—」『富山県〔立山博物館〕研究紀要 第8号』（3頁～59頁、富山県〔立山博物館〕、2021年3月）。

² 拙著『近世立山信仰の展開—加賀藩芦峯寺衆徒の檀那場形成と配札—』（131頁～214頁、岩田書院、2002年5月）。

³ 小矢部市観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文「願主教蔵坊照界立之」。

⁴ 小矢部市観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文「皆時文政八年乙酉七月吉日」。

⁵ 小矢部市観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文「請負松本飯田町葉罐屋佐原市右衛門正孝」。

⁶ 小矢部市観音寺の銅造地藏菩薩半跏坐像の銘文「御鑄物師大工職 信濃国上田住 小嶋大治郎藤原弘孝謹制」。

⁷ 「当山古法通諸事勤方日記 芦峯寺 文政十二丑年五月改之」（廣瀬誠編『越中立山古記録 第1巻』所収、37頁、立山開発鉄道株式会社、1989年9月）。「一、閻魔堂 廿四日 五尊共御供備ヒ。外ニ地藏菩薩老尊御供上ル。此ハ教蔵坊より祠堂附有。金子ハ一山へ差出し候。」

⁸ 「諸堂勤方等年中行事 外数件 天保十三年度」（高瀬保編『越中立山古記録 第4巻』所収、26頁、立山開発鉄道株式会社、1992年6月）。「焰魔堂年中勤方」の項目に「一 七月十六日、日中衆徒・社人沐浴出勤 一 香花・燈明・誦經等ハ縁日之通り」と記されている。

⁹ 立山地獄及び芦峯寺一山の大水陸会に関する絵と詞書きの版木（富山県〔立山博物館〕所蔵）、及びその刷り物。史料名：「立山地獄」、版木の法量：縦30.5cm×横39.0cm×厚さ1.8cm。詞書き：「立山地獄谷地藏菩薩諸の罪人に代り苦悩を受給ふ故ニ尊躰瘦損し給ぬ。依て十方衆生の先□（1字擦れ難読）罪滅当主安全のため信施を頼ミ再建なし奉願るにや。願主教蔵坊。「地藏尊前ニおゐて毎年七月十六日一山の僧侶集会施主の面々未来成仏のため大水陸会を修す」。「水陸会」は仏教行事であり、水陸齋、悲齋会ともいう。飲食物を水辺や大地に散じて諸霊に施し、苦悩を除こうとする法要である。餓鬼会、施食会、施餓鬼会と同じ法要である。

¹⁰ 立山町史編纂室編『立山請来 延命地藏銘 小矢部市観音寺境内安置』（1972年5月）。地藏尊像の銘文を翻刻しガリ版刷りの資料集として紐でとじたもの。

¹¹ 山内實太郎『松本繁昌記（復刻）』（141頁、山麓舎、1982年10月）。『松本繁昌記』は近刊の「東京新繁昌記」に倣ったとある。この書は、文学者の服部誠一が維新後の東京の街や風俗の様子を洒脱に書き、明治7年（1874）から全6編を出版した。松本繁昌記は前編42ページ、中篇168ページ、後編54ページからなる。巻頭に会社や商店の広告、写真等を掲載。前編で松本の沿革を示し、中篇では地域別に「信切勉強の評判ある各種商店」を紹介している。菓子、呉服、茶、書籍、米穀、洋品、紙類、下駄、酒、薬、桶、織物、蚕糸、砂糖、塩、煙草、陶漆器、足袋、石、銃器、金物、肥料などの小売や卸問屋のほか、銀行、質、運送、旅館、料理店、印刷業、電気事業者、遊郭、温泉まで当時盛んだった商工業者を列記。所在地、屋号、取り扱う品物や品揃えの豊富さ、いかに質が良く善良な商いをしているかなど事細かに書き尽くしている。後編では当時盛んだった秋蚕種業を取り上げ、

東筑摩郡内の41、南安曇郡内の27の業者を紹介している。

¹² 降旗正幸「年表」『奈川村誌 歴史編』（582頁、奈川村誌編纂委員会編修、奈川村誌刊行委員会発行、1994年5月）。降旗正幸氏は奈川中学校の校長を務め、その後、奈川公民館に勤務し『奈川村誌』の編纂に携わった。

¹³ 「奈川野麦峠ミュージアム」。運営管理：株式会社ふるさと奈川。担当部署：観光交流部・ふるさと奈川ファンクラブ事務局・野麦峠まつり実行委員会。責任者：代表取締役社長 奥原仁作。制作／デザイン：NAGAWA未来デザイン研究室・地域デザインチーム。制作協働：ふるさと奈川を起こす会・奈川公民館・奈川支所。連絡先：0263-79-2500（代表電話）fan.furusatonagawa.com

¹⁴ 斉藤善夫「立山にあった鐘と地蔵尊—その鑄造地について—」（斉藤善夫『富山・石川梵鐘考』所収、27頁～44頁、北陸石仏の会、1998年9月）。

¹⁵ 註14を参照。斉藤善夫「立山にあった鐘と地蔵尊—その鑄造地について—」（37頁）。

¹⁶ 高瀬保「西猪谷口留番所の通行者」（同氏著『加賀藩流通史の研究』所収、509頁～543頁、桂書房、1990年4月）。

¹⁷ 『富山県勸業第一回年報 明治十六年 富山県勸業課』（52頁～61頁、富山県勸業課、1884年3月）。

¹⁸ 『下新川郡史稿（上巻）』（1128頁～1137頁、下新川郡役所〔編者〕、名著出版、1972年5月）。「寛政年間紀元（二四四九）信濃国松本の麻商某、三日市町円右衛門方に宿泊し、在来の綿織物中、白木綿は、該地方の需要に適する旨を以て、若干を其国に持帰り、是れ信州へ販路を開くの鼻祖たり、文化の頃に至り、三日市村島屋清吉、大に見る所あり、自から信州松本に至り、同地商人と交り、葉罐屋某と契約して、木綿を輸出す爾来信濃、越後の商人、当郡内諸方に来り、夥多の木綿を買取ることとなり、初めて新川木綿の名を成せり、（島屋清吉は新川木綿の販路を擴め、大に功ありたるが故に、明治十八年時の農商務卿より追賞せられたり、）天保の頃に至り、益隆盛となり、新川郡に於て、木綿問屋を置かれたる宿譯は、滑川町・上市町・魚津町・三日市村・生地村・入膳村・泊町の七ヶ所なりしが、上市地方の木綿は地厚く、信州地方に適せず、下新川郡の産出品は、軽目にして、専ら信越地方に輸出せり（白木綿一反の量目九十六匁より、百三十匁までにして、明治十八年、東京上野公園に於いて、開れたる共進会に三日市より、一反重量六十五匁の木綿を出品して、好評を博せしと云う、）爾後漸次發達し、慶応年間より、明治十年前後は、最盛期を極め、同期間に於ける、本部各駅より輸出したる白木綿の数量左の如し、魚津二十三万反、三日市二十七万反、生地十八万反、入膳十六万反、泊二十一万反、合計百五万反」

¹⁹ 『滑川町誌』（206頁～210頁、富山県滑川町役場、1913年8月）。

²⁰ 黒田源太郎『爐邊夜話』（313頁～331頁、黒田源太郎〔著作兼発行者〕、1933年10月）。七、木綿の販路と取引方法「高岡から源綿を仕入れて織上げた白木綿は、再び高岡に行つて、高岡染の裏地手拭地又は晒木綿として、越中は勿論のこと、遠く出羽奥州までの販路を有し、諸方へ輸出したのである。信州の松本では、主として江戸や関東向の手拭地として消費され、極少数派は信州足袋の材料に使用されたが、一般に考えてみたやうに重用されてゐなかつた。其他越後の三条見付方面への得意先は専ら裏地用であつたさうである。それで、魚津では木綿の取引高が漸次殖えるにつれ、綿屋組合を設けて、協同販売に近い取引をしていたが、明治時代になつてから、之を成綿社と名づけ、社長に木下佐久造や大久保與平が選ばれ、其他高岡係二名、松本係一名、船係一名を任命した。高岡係は高岡の宿屋の宿泊料の協定専用倉庫の建築修繕、高岡木綿組合たる明業社との交渉に当たるのが役目であつて、此配下に番雜と云ふ支配人格の者二名を常詰となし、其報酬として木綿一把（二十反入）に付、貳錢宛の口銭を給與したのであつた。松本係は、魚津に居て、松本より買付に出張する商人との交渉に當るのみであつたから、口銭も亦少なかつた。松本商人の定宿は、特に木下佐久造としてゐたが、仲々儲かつたものと見え、よく遊興を為し、

或者は通帳で廊通をしたなど云ふ逸話が残つてゐる。而かも彼等は唯魚津のみではなく、三日市、生地、入膳、泊でも、相当に取引を為し、且つ遊興をしたので、大に其宿駅の利潤となつたと云ふ話である。松本との取引開始は、寛政年間（紀元二、四四四年）に、同地の麻商某が三日市に來り、見本として若干反を持歸つたのが、販路を開いた鼻祖であり、文化の頃、三日市の島屋清吉が、自ら松本に到り同地商人と契約して、木綿を輸出するに到つた大功労者であることを忘れてはならぬ。」

²¹ 奥田淳爾「新川木綿の盛衰」『富山史壇 第33号』（8頁～13頁、越中史壇会、1966年3月）。

²² 入善町誌編纂委員会編『入善町誌』（637頁～658頁、入善町役場、1967年8月）。

²³ 魚津市史編纂委員会編『魚津市史 上巻』（337頁～341頁、魚津市役所、1968年3月）。

²⁴ 魚津市史編纂委員会編『魚津市史 下巻 近代のひかり』（241頁～249頁、魚津市役所、1972年3月）。

²⁵ 「第2章「生業と労働」 6.「新川木綿」」（『富山県史 民俗編』所収、417頁～420頁、富山県、1973年3月）。

²⁶ 高瀬保「新川木綿の発達と高岡綿場の確立」（同氏著『加賀藩海運史の研究』所収、391頁～428頁、雄山閣、1979年2月）。

²⁷ 「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」（『富山県史 通史編IV近世下』所収、136頁～148頁、富山県、1983年3月）。

²⁸ 谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」（『富山大学日本海経済研究所研究年報 第16号』所収、1頁～41頁、富山大学日本海経済研究所、1990年）。

²⁹ 入善町史編さん室編『入善町史 通史編』（210頁・211頁、358頁～360頁、入善町、1990年10月）。

³⁰ 註27参照。「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」（『富山県史 通史編IV近世下』所収、137頁）。

³¹ 註27・註30参照。「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」（『富山県史 通史編IV近世下』所収、137頁）。

³² 『下新川郡史稿（上巻）』（1130頁）。谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」（25頁）。

³³ 『近世産物政策史の研究』（95頁、文献出版、1986年5月）。『下新川郡史稿（上巻）』（1130頁）。谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」（25頁）。

³⁴ 「江戸方御用留 三」（金沢市立玉川図書館所蔵）。高瀬保『加賀藩海運史の研究』（391頁・392頁、雄山閣、1979年2月）。「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」（『富山県史 通史編IV近世下』所収、137頁）。谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」（25頁）。

³⁵ 山本和代子『室屋長兵衛 綿商人の町高岡』（最終閲覧日、2023年12月31日）。（www.yamagen-jouzou.com/murocho/aji/cotton/cotton1.html）。

³⁶ 「文政13年（1830）8月の加賀藩産物方主付一丸甚六の書状」「江戸方御用留 三」所収、金沢市立玉川図書館所蔵）。高瀬保『加賀藩海運史の研究』（391頁）。

³⁷ 註18参照。『下新川郡史稿（上巻）』（1130頁）。

³⁸ 註18参照。『下新川郡史稿（上巻）』（1130頁）。

³⁹ 註36参照。「文政13年（1830）8月の加賀藩産物方主付一丸甚六の書状」「江戸方御用留 三」所収、金沢市立玉川図書館所蔵）。高瀬保『加賀藩海運史の研究』（391頁）。

⁴⁰ 註21参照。奥田淳爾「新川木綿の盛衰」（10頁）。

⁴¹ 延享4年（1749）9月に芦峯寺衆徒・社人中から加賀藩寺社奉行所へ宛てられた書付（芦峯寺雄山神社所蔵）。

- ⁴² 安永8年(1779) 芦峯寺日光坊「芦峯姥堂大縁起」(個人所蔵、富山県〔立山博物館〕寄託資料)。
- ⁴³ 寛政7年(1795) 芦峯寺大仙坊「立山御姥尊布橋施主帳 立山御姥尊別当大仙坊」(芦峯寺大仙坊所蔵)。
- ⁴⁴ 寛政7年(1795) 芦峯寺大仙坊「立山御姥尊布橋施主帳 立山御姥尊別当大仙坊」(芦峯寺大仙坊所蔵)。
- ⁴⁵ 文化2年(1805) 芦峯寺善道坊「立山御姥尊荘厳施主帳」(富山県〔立山博物館〕所蔵)。
- ⁴⁶ 文化11年(1814) 芦峯寺宝泉坊衆徒照円「勸進帳(布橋大灌頂勸進記)」(個人所蔵、富山県〔立山博物館〕寄託資料)。
- ⁴⁷ 文化14年(1817) 芦峯寺権教坊「芦峯中宮寺姥堂大縁起」(廣瀬誠編『越中立山古記録 第3巻』所収、5頁～9頁、立山開発鉄道株式会社、1991年10月)。
- ⁴⁸ 文政3年(1820) 芦峯寺宝伝坊「御姥尊縁起」(芦峯寺一山会所蔵)。
- ⁴⁹ 文政3年(1820) 芦峯寺泉蔵坊「立山御姥尊別当奉加帳 芦峯泉蔵坊」(半田市立博物館所蔵)。
- ⁵⁰ 芦峯寺大仙坊「立山御姥尊別当奉加帳 芦峯大仙坊」(国立国会図書館所蔵摺物集『堂中杖 第6冊』所収、国立国会図書館所蔵)。
- ⁵¹ 文政10年(1827) 芦峯寺相善坊「北国立山御姥堂別当奉加帳」(富山県〔立山博物館〕所蔵)。
- ⁵² 文政6年(1823) から文政12年(1829) の間に作成された「立山本地阿弥陀如来略記」(個人所蔵、富山県〔立山博物館〕寄託資料)。
- ⁵³ 天保2年(1831) 芦峯寺善道坊「立山御姥尊布橋大灌頂勸進記」(富山県〔立山博物館〕所蔵)。
- ⁵⁴ 「諸堂勤方等年中行事外数件 天保十三年度」(高瀬保編『越中立山古記録 第4巻』所収、1頁～64頁)。
- ⁵⁵ 元治元年(1864) 芦峯寺宝泉坊衆徒泰音「布橋大灌頂勸進記」(個人所蔵、富山県〔立山博物館〕寄託資料)。
- ⁵⁶ 註21参照。奥田淳爾「新川木綿の盛衰」。註27参照。「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」、『富山県史 通史編IV近世下』(136頁～148頁)。
- ⁵⁷ 註27参照。「第7章「商品生産と流通」第4節「織物類」3「木綿」」、『富山県史 通史編IV近世下』(137頁)。
- ⁵⁸ 嘉永2年(1849) 善道坊竜泰著『立山秘伝御帷子等整法草稿』(富山県〔立山博物館〕所蔵)。
- ⁵⁹ 長野県編『長野県史・近世史料編 第5巻(3) 中信地方』(131頁・132頁、長野県史刊行会、1974年9月)。
- ⁶⁰ 註28参照。谷本雅之「19世紀、新川木綿の発展と衰退—衰退型白木綿産地の一事例—」。
- ⁶¹ 東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会編『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌 第2巻下』(655頁、東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会、1968年)。
- ⁶² 『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌 第2巻下』(654頁)。
- ⁶³ 註36と註39参照。「文政13年(1830)8月の加賀藩産物方主付・丸甚六の書状」「江戸方御用留 三」所収、金沢市立図書館所蔵。高瀬保『加賀藩海運史の研究』(391頁)。
- ⁶⁴ 本多重郎「新川木綿」(『三日市町誌』64頁、1971年)。
- ⁶⁵ 『松本市史 上巻』(778頁、松本市役所〔編〕、名著出版、1973年9月)。
- ⁶⁶ 久根下三枝子「犀川通船と城下町の流通」『よみがえる城下町・松本一息づく町人たちのくらし』(松本城下町歴史研究会、郷土出版社、2004年5月)。
- ⁶⁷ 「紙漉川と地場産業の展開」『城下町探訪39』(「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会事務局〔信濃毎日新聞松本本社・松本市文化観光部文化振興課〕、2009年12月)。